

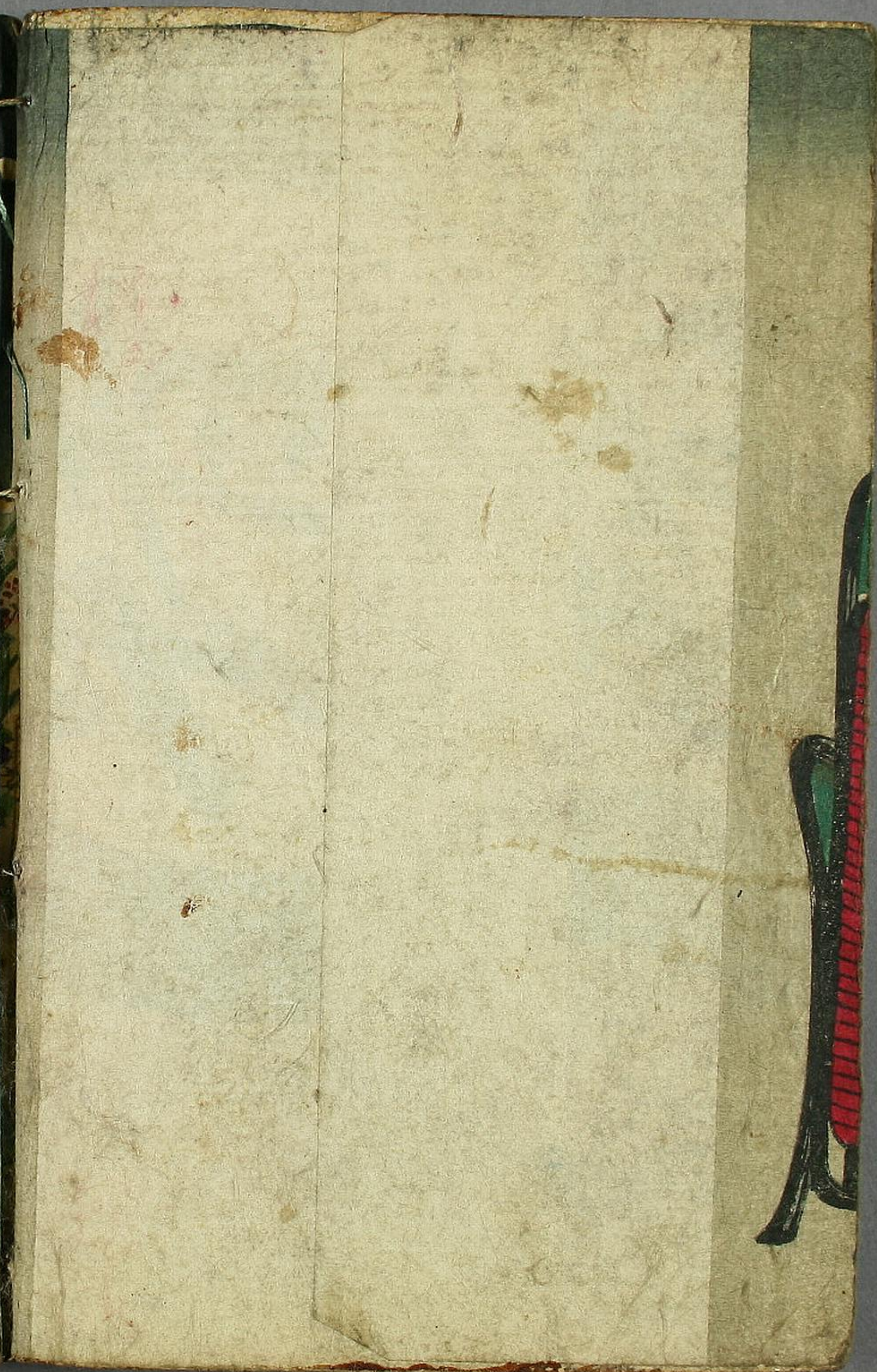


55

60

65

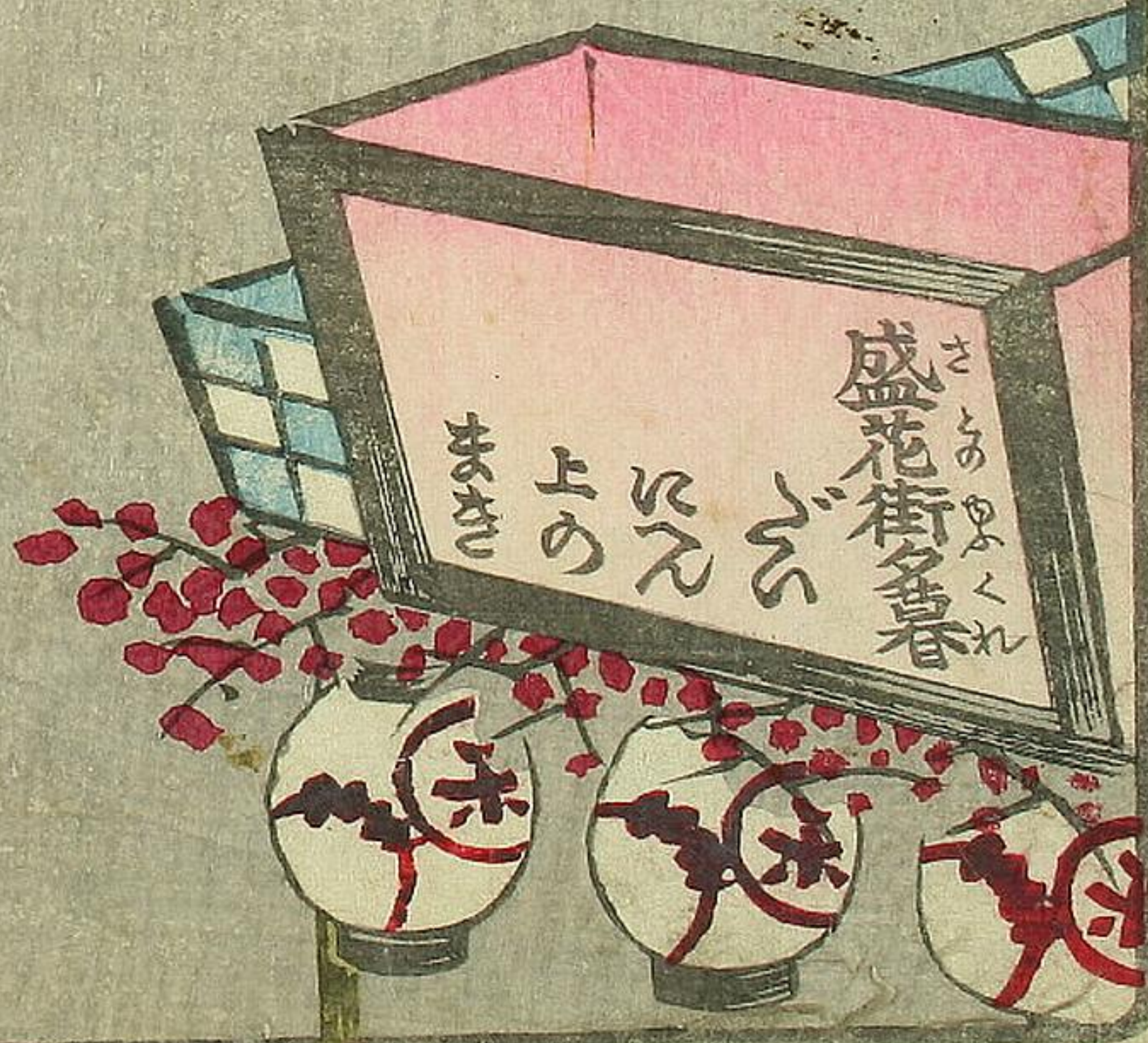
70



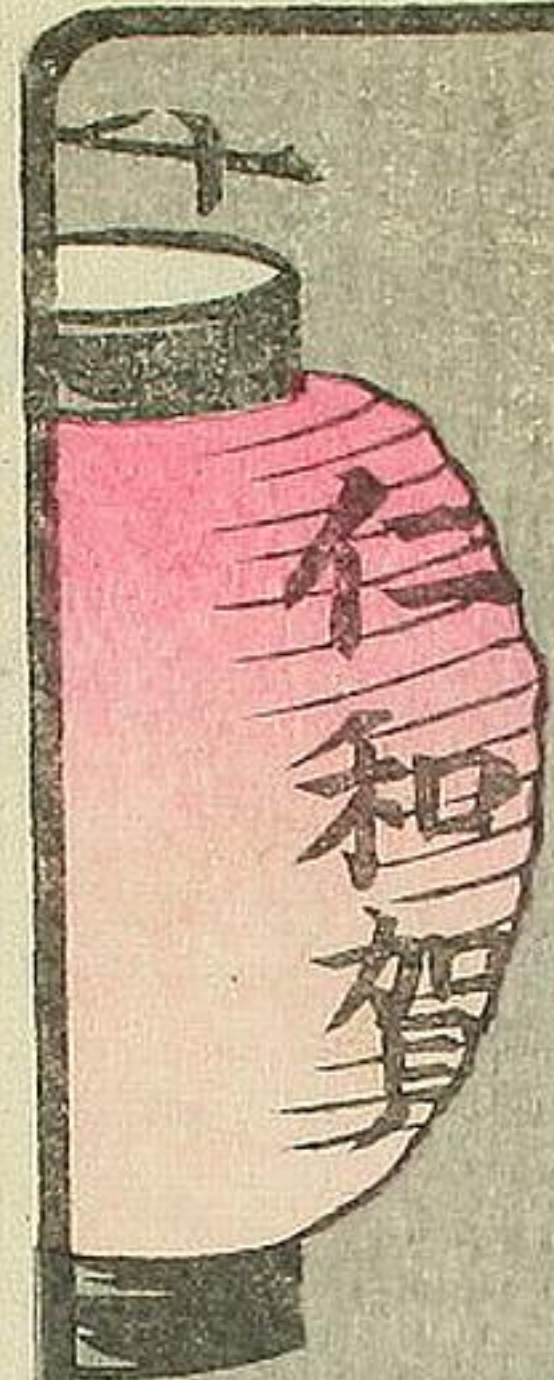
志の河

書字

画



錦書



祈らばたの夢に体と九君の形を名にりあはるる彩の燈籠の
 縁約福福園の遠くと刀槍後より来る由の縁の縁を不
 儼と巡り大坂の千重丹を縁約は四主乃仇の萱川藤まると縁の縁を不
 儼のお貞が節操義烈歌を共小生平が吉川婿の徳信居るを以
 て子細子の鼻緒も切道と下り守再び盆と返る水の喜れや沖繩一
 今月縁立の縁別と父が譲りの千重院生切知切味と二階小流す
 紅葉川流は元々の姉妹名を合せ世に櫻木初花園果の巡る縁法師死者
 自中の著法縁彼祈焼縁の周縁七流出さ色一妙文と愛し抄出
 序文小換ふ先は口上丸縁千ヨシ千ヨシ

明治十四年表

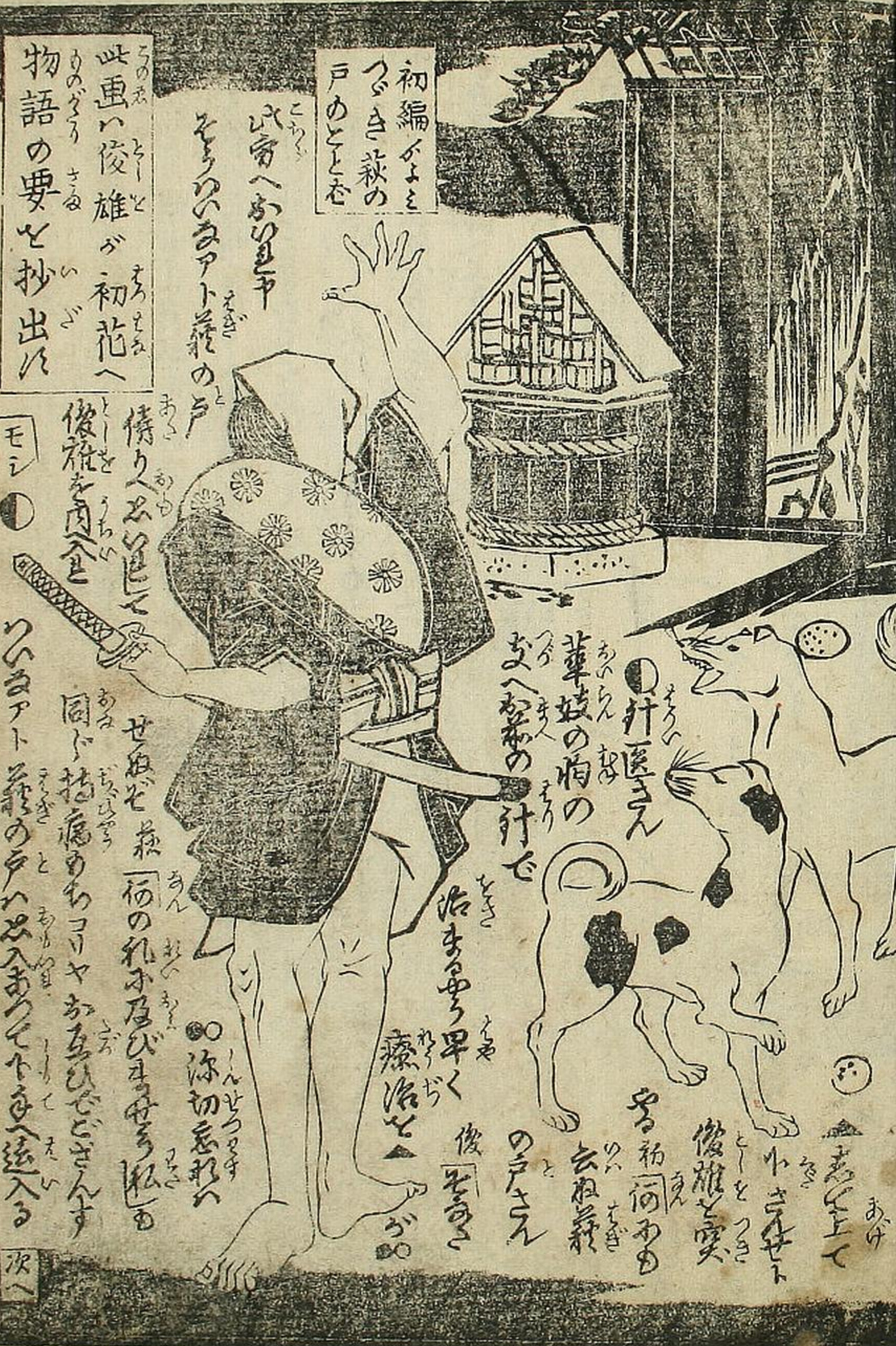
粹興子記



秋戸屋の娼妓初花



士族富永俊雄



此画は俊雄が初花へ物語の要と抄出

初編のよきつみ萩の戸のとを

此画へあつて

情りあふ世に俊龍を肉金

せぬを萩の初花及びまき松も同く持病のちりやあまひをどさんす

●針医さん
華妓の病の
まへおの針で

治まる早く
療治と

●初花の
俊龍と愛
のうらみ



忠僕江澤真平

一ノ七二

つぎ 初は送つて初花が後進まぬや

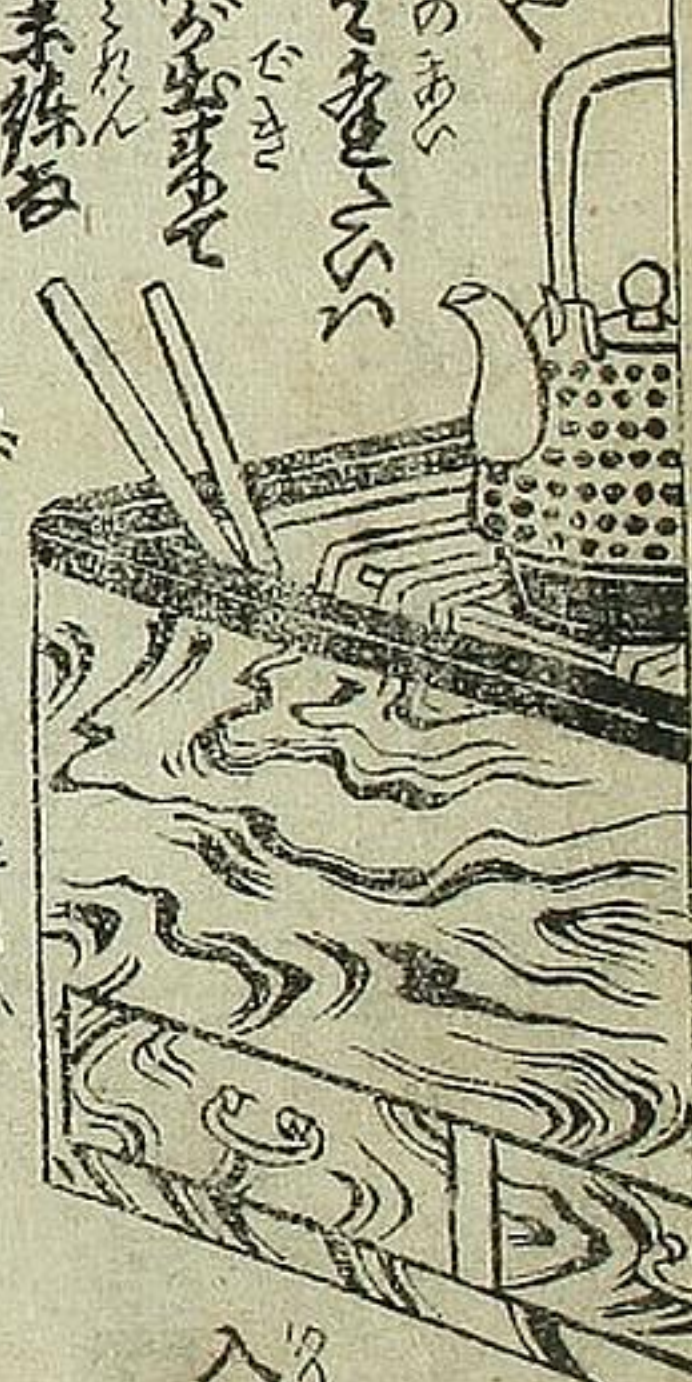
逢ふまじき人にては多し進み遅くはまじき人の
逢ふまじき人にては多し進み遅くはまじき人の
逢ふまじき人にては多し進み遅くはまじき人の

二階と三階と二階と三階と二階と三階と二階と三階と

戸があらは二階と三階と二階と三階と二階と三階と

想がもたらぬあらうのうと又は後進
邪推するもあらは進むは後進

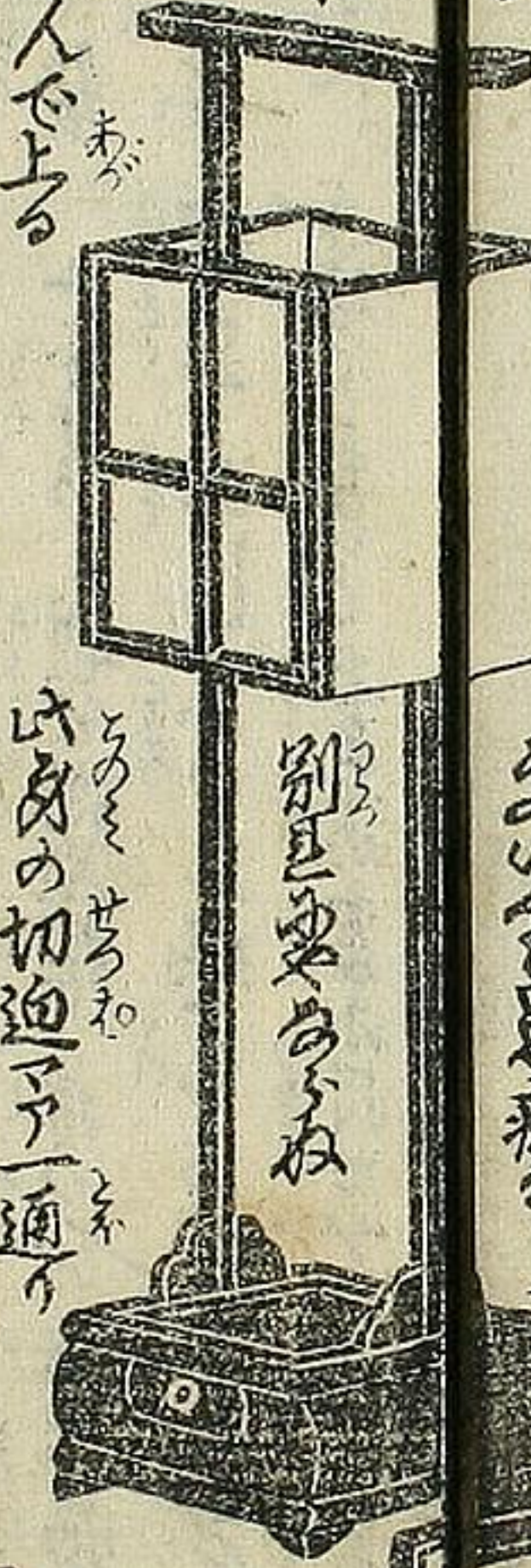
千四 路奪ひ
取て逃
去る者
ありが
只不
後より討
斥て元の
位放進有
て操奪



△此合儀の
種を形の日を
入の生後亦用合
の員敷
七改め
確と討
予付
業小
五年の冬
合振貨幣三
千四と千四紙幣



△此合儀の
種を形の日を
入の生後亦用合
の員敷
七改め
確と討
予付
業小
五年の冬
合振貨幣三
千四と千四紙幣



△此合儀の
種を形の日を
入の生後亦用合
の員敷
七改め
確と討
予付
業小
五年の冬
合振貨幣三
千四と千四紙幣



千四 路奪ひ
取て逃
去る者
ありが
只不
後より討
斥て元の
位放進有
て操奪

△此合儀の
種を形の日を
入の生後亦用合
の員敷
七改め
確と討
予付
業小
五年の冬
合振貨幣三
千四と千四紙幣

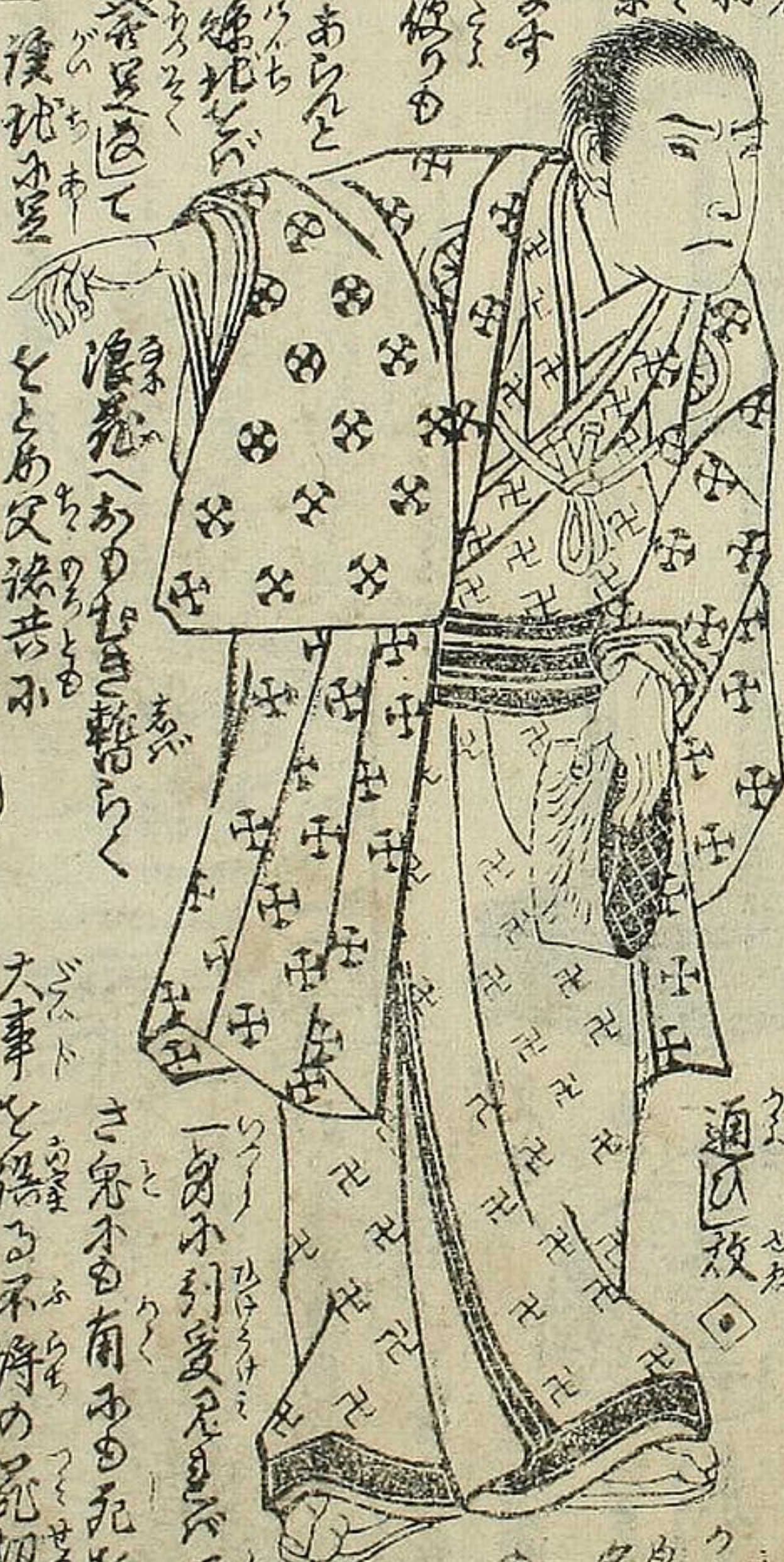
△此合儀の
種を形の日を
入の生後亦用合
の員敷
七改め
確と討
予付
業小
五年の冬
合振貨幣三
千四と千四紙幣

是も又俊
雄か初花へ
物のつら
中とつら



付下
川用
令

過き肉後長祿の士族とありむきふは由
の誤り小字方が件へ 何因の世に
通に致
さ鬼も有南も死を来し
大事を信する不埒の死切後
て中し候あるより外も
はねては故令中用か世の
残骸死久せぬ以出さ
一遍の身事なりと名向て
基コレ物花仔細と

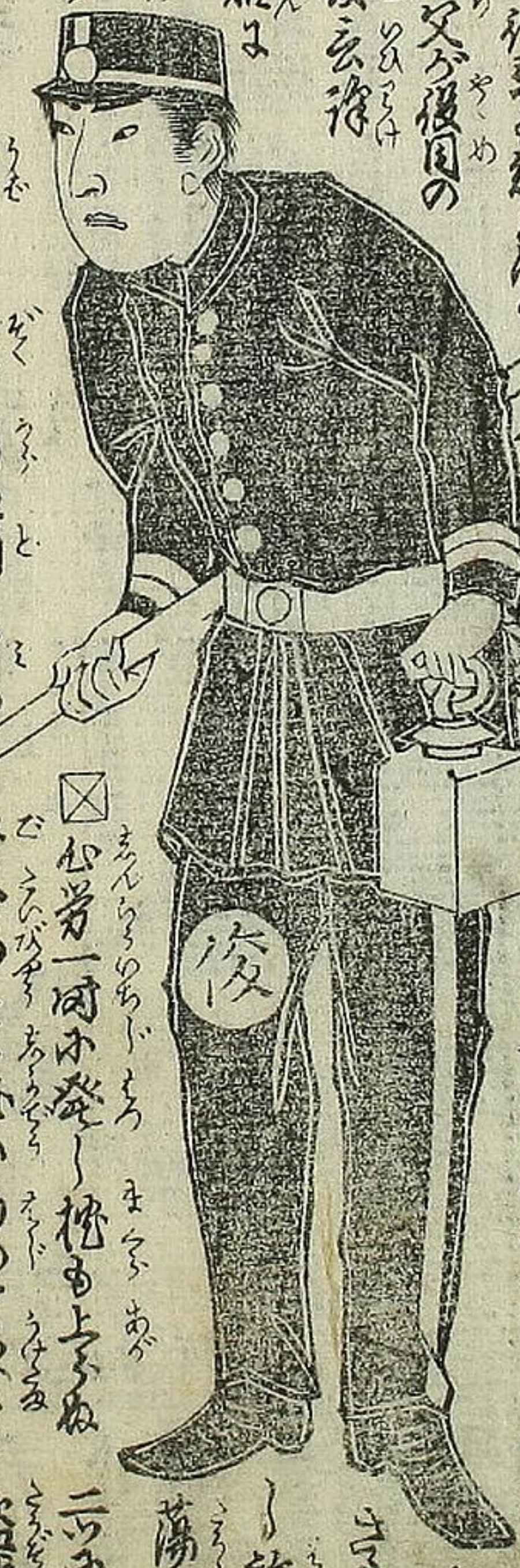


立ぬ災難よ
終あまの
難ひ多
暫く暫
居の内身
の上毛に

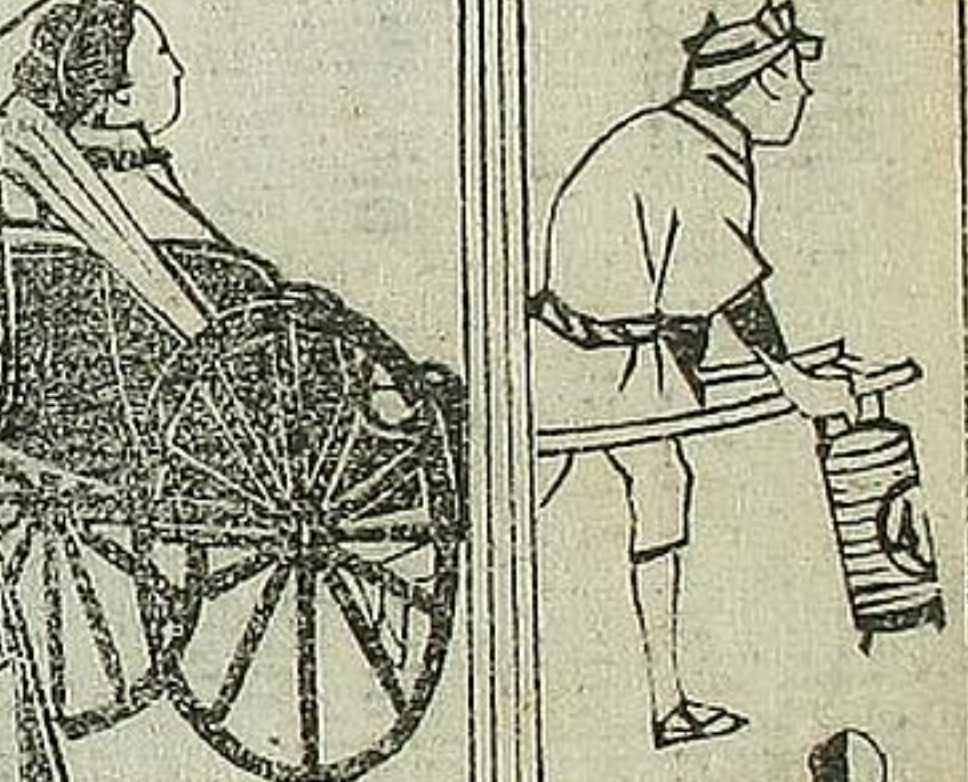
奪ひて械を搦め捕り身の
際向をまじしとむらまねと先との
を懸りもあく七幸の愛小月日と

心若一河小登一橋も上るぬ
水大痛と去候小初めて承り
廿あての初心れ花中し
上と名世を僕も若乳
盗賊
と探索
まねバ

械の形事も御と
云て父が復国の
赦後云後



さき
まじしと
さき
さき



寄るは僕に巡査と
奉職して務る在家
と探れも今小
後の道も取れば能う
と父上の多幸の
不孝に
あつり
まも跡
まをと
さき

さき
さき

さき

なきいひの通りトヤそのお徳も

ゆきも委愛お徳中し放流く

知らねどお前の父さん孝方な核のなほも

知れぬ大徳はこれ徳家も徳家

あつて不孝の罪を多し心も

えとれせぬ松く放しやくまが罪

あつたおの放蕩お志はも志は今日も

お意はけの放蕩お徳は徳家の清き徳に

おもく生澄は世を理はれお母世

不孝の罪科只以上二命持お徳をさる

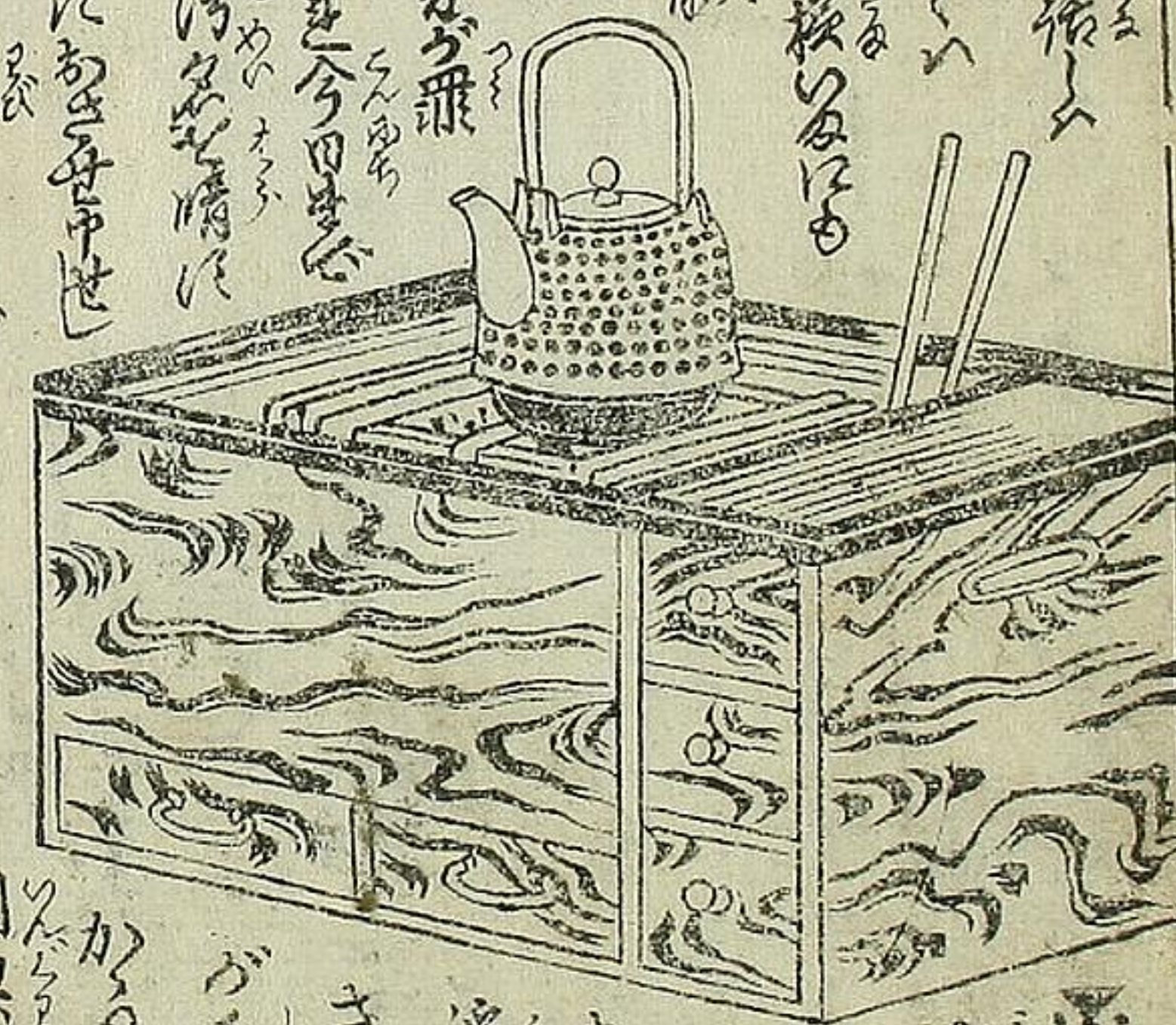
は肉の徳白

必らけそ方と

恨もへ殺さ

ぬ復令お徳

の罪ゆもせよ如何しと後物舎
ふ互いお徳ひお徳して強止
志はけの傍り今と成てお徳
お徳人死し何で満ませう
切後とてお徳入らるお徳も
復し自害しと那世とさへ
お徳のさアイヤくまへ悪い
お徳僕が一命持のい父へ不孝の
中徳は命も復し死すとまてお徳の徳は
昔と違ひ開化の代二人徳とも生害さるお徳
者とも馬鹿お徳のさる必らけ各社の新屋へ等
浮世へ流布せしお徳後と亡名を徳徳のさる
まよりお徳の徳徳お徳徳徳徳徳徳徳
徳徳徳徳のさ父母への何より孝行トヤ



玉子や 姉さん

水臭い ぶ有る

徳徳 徳徳

さん徳令

浮名を徳

されてお徳

が徳徳お徳

かまお徳徳

因果同士まお

兄さん

徳徳徳徳

の果と波これ

まさてまてお徳

ら徳徳お徳

徳徳徳徳

上も徳徳

徳徳徳徳

徳徳徳徳

徳徳徳徳

徳徳徳徳

徳徳徳徳

徳徳徳徳

つぎ 少くも早く

後推せんねい

死にまゐらすつひ

そらまはるゝか

あふを分別とも云

いゝあふをくゝあね

とも冥土と云ふの

妙世帯運の曇も

睡まゝ今ハ寝け

極樂の新開所

へ店と借り

亡老とあ

かゆシヤツ

西洋物の小

高内緋の山と修

羅道の荒地を二入

で周船と一素で

由道と昔羅の

業も古々う籠籠

由老博多まがいの帯

死と並べ

六道後の沢貝本に士族

あふも高浪が安まら

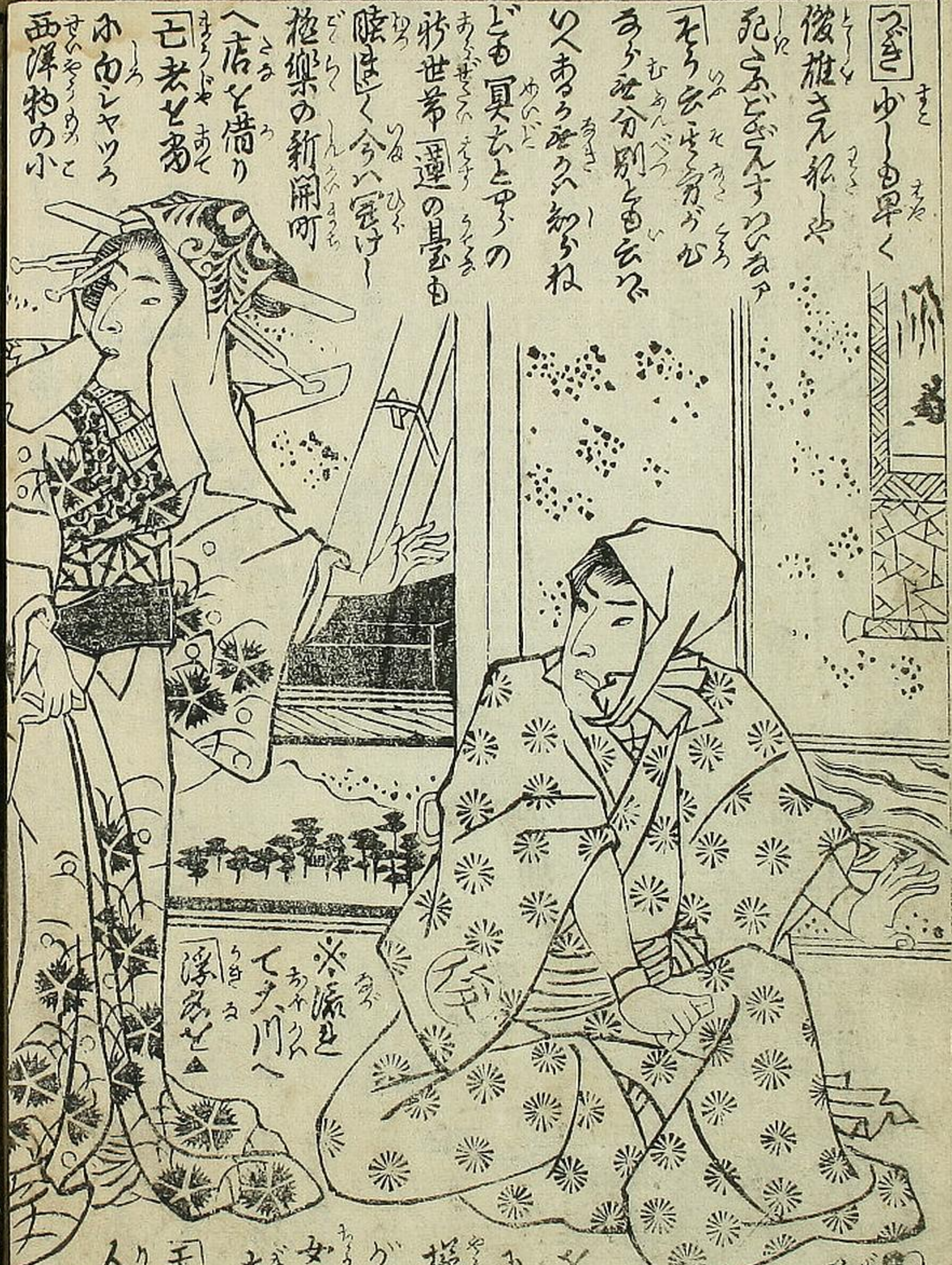
知とぎれ

と小寧を愛と六逃亡

然の中ふの昔く多教

場雨の向陽海田川

どんぶりやう



初

今

源

あひは 希ふ 乙女 小下 陸子 細目 小窓 横子 女弁 本か 人さん

源

少

後

以

ト

身

あふも 高浪が 安まら 知とぎれ と小寧を 愛と六逃 亡然の中 ふの昔く 多教場 雨の向 陽海田 川どん ぶりや とうり 隣舟の 次へ

つぎ

櫻木

物

へらの

子

七

横

宵

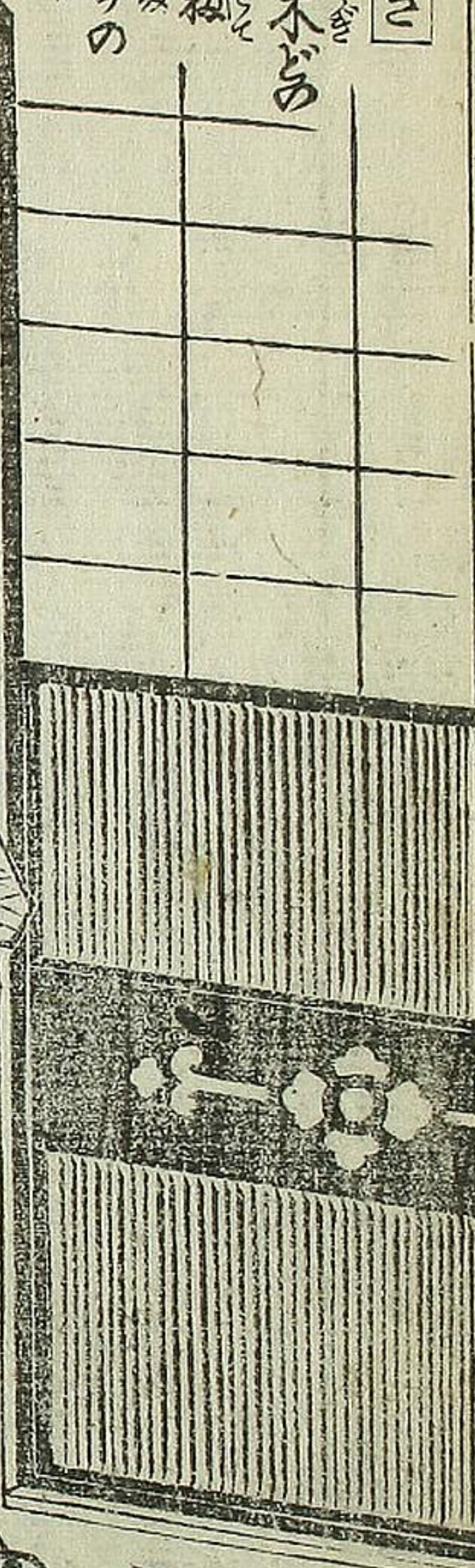
宵

宵

夜半にゆくお二人の逃亡

イヤサケは構いまいねえそ

宵半の夜半はねえそ



おえす

まの只一下は

小馬麻草

まの狭い

分別と

あす

あす

あす

あす

あす

あす

あす

あす

あす

あす

あす

あす

あす

あす

あす

あす

あす

あす

あす

あす

あす

あす

必死の覚悟で

うら若いおふくさん姉と

お名小櫻木が縁に出入りの

あせりうら若いおふくさん姉と

お名小櫻木が縁に出入りの

あせりうら若いおふくさん姉と

お名小櫻木が縁に出入りの

あせりうら若いおふくさん姉と

お名小櫻木が縁に出入りの

あせりうら若いおふくさん姉と

お名小櫻木が縁に出入りの

あせりうら若いおふくさん姉と

お名小櫻木が縁に出入りの

あせりうら若いおふくさん姉と

お名小櫻木が縁に出入りの

二落と

停止を遂げ

お名小櫻木が縁に出入りの

あせりうら若いおふくさん姉と

お名小櫻木が縁に出入りの

あせりうら若いおふくさん姉と

お名小櫻木が縁に出入りの

あせりうら若いおふくさん姉と

お名小櫻木が縁に出入りの

あせりうら若いおふくさん姉と

お名小櫻木が縁に出入りの

あせりうら若いおふくさん姉と

お名小櫻木が縁に出入りの

あせりうら若いおふくさん姉と

お名小櫻木が縁に出入りの

お名小櫻木が縁に出入りの

あせりうら若いおふくさん姉と

お名小櫻木が縁に出入りの

あせりうら若いおふくさん姉と

お名小櫻木が縁に出入りの

あせりうら若いおふくさん姉と

お名小櫻木が縁に出入りの

あせりうら若いおふくさん姉と

お名小櫻木が縁に出入りの

あせりうら若いおふくさん姉と

お名小櫻木が縁に出入りの

あせりうら若いおふくさん姉と

お名小櫻木が縁に出入りの

あせりうら若いおふくさん姉と

お名小櫻木が縁に出入りの

生方不似也 上より妹をよそ
 られぬ後 初 一とく 是も秘多
 元之起之悪
 初め後未だ今の
 中 入る小画面をいせぬ
 接 「さうや何と云ふお入るは妹と
 忍ぶ事のみ後娘さんとて又
 公の矜持の方ハ程遠くはなる道
 実情と心と死のふまへとを
 必以断るて何と云ふお侍の心せぬ
 あり後 中 内も及む後 見え
 後 中 内も及む後 見え
 後 中 内も及む後 見え
 後 中 内も及む後 見え
 後 中 内も及む後 見え



初
 考ぐてえ
 河の毛自ツの初
 後 止まる又ツの

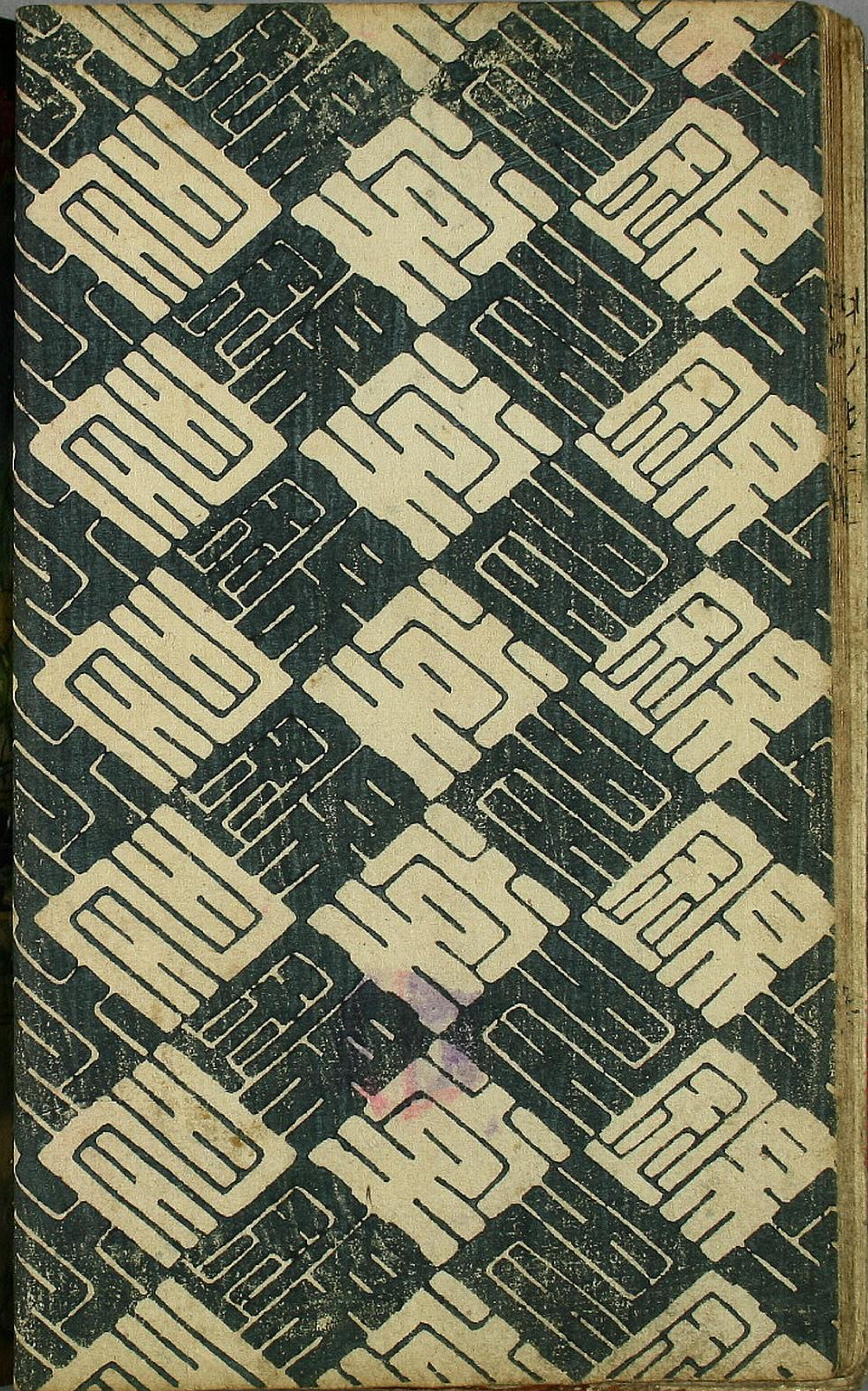
死を
 仕掛と
 あり
 出はりのされと 男の
 死を
 仕掛と
 あり
 出はりのされと 男の



後 内
 若世の
 方何
 如何
 交回
 後 内
 若世の
 方何
 如何
 交回



戀仇盛花街夕暮
編貳





上りつぎ
 毛夕石選
 小春やいと
 べんて
 は何の華やと道川せん
 の一程と歩いおるまふが
 みるも
 みるト
 このときも
 り付下るよ
 なが
 ぬがのへんあつと

萩のつぎ
 出まの丹ア
 ねらふあ合

さきさき
 こゝろはたつて
 今おの華枝はあふるといふ人
 けお方であんまをたつ物屋
 半さるんて不意の主人
 のお連のお密とあひあはす
 萩柳川せんり大團あま
 めくてもお空れお武家
 旁いよとあふふをまふ
 お盤もあふ盤かへい
 回舞とら頑固と團
 化舞への日本舞
 萩舞あふあま
 ぬがのへんあつと



ゆき
 けき
 さや
 おのこ
 のこ

二角ん
 中の
 おま
 萩の
 文彦

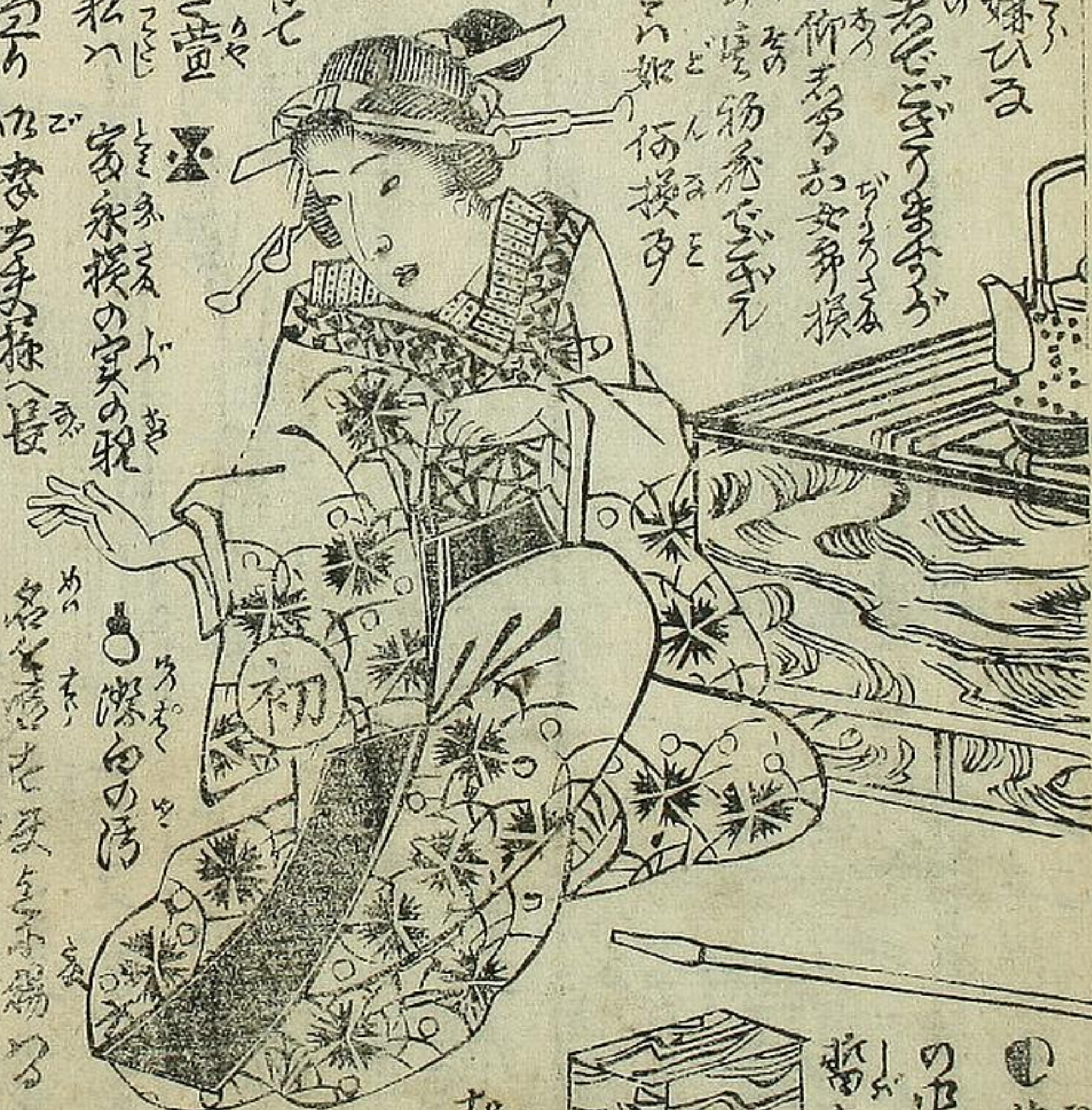
五分判の毛程も嫌ひ

人力車まゝの市長者をさうまうか
面して是を物産と仰るお女御様
でござうまうかアイ私に物産をさ
ま私に何れかしては如何様

心ざんすへはおれ
の海もあれど何れも
てはトは彼の所へ入る

おれは彼の所へ入る
川さのりおせへ一寸
おれは彼の所へ入る

おれは彼の所へ入る
おれは彼の所へ入る



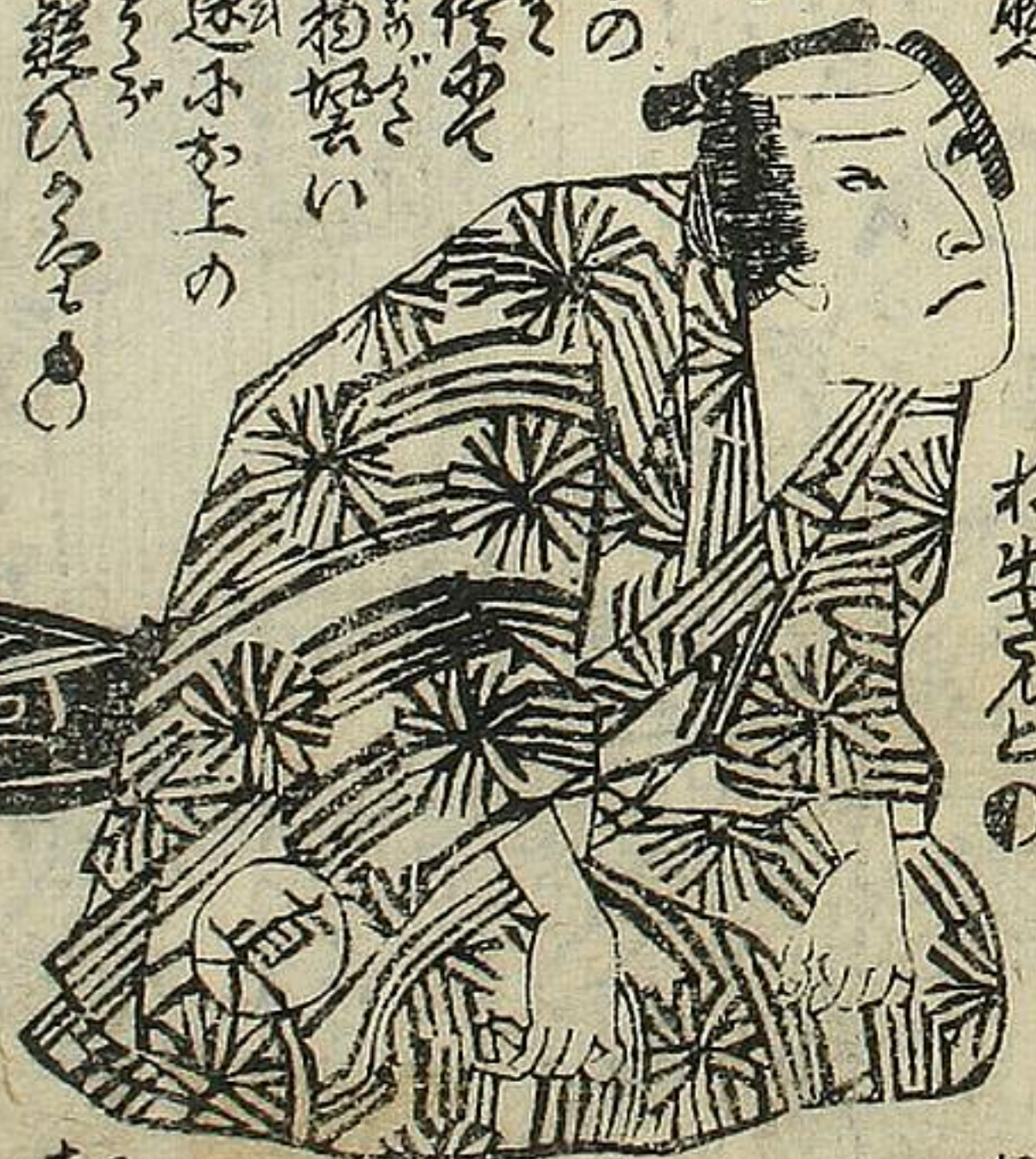
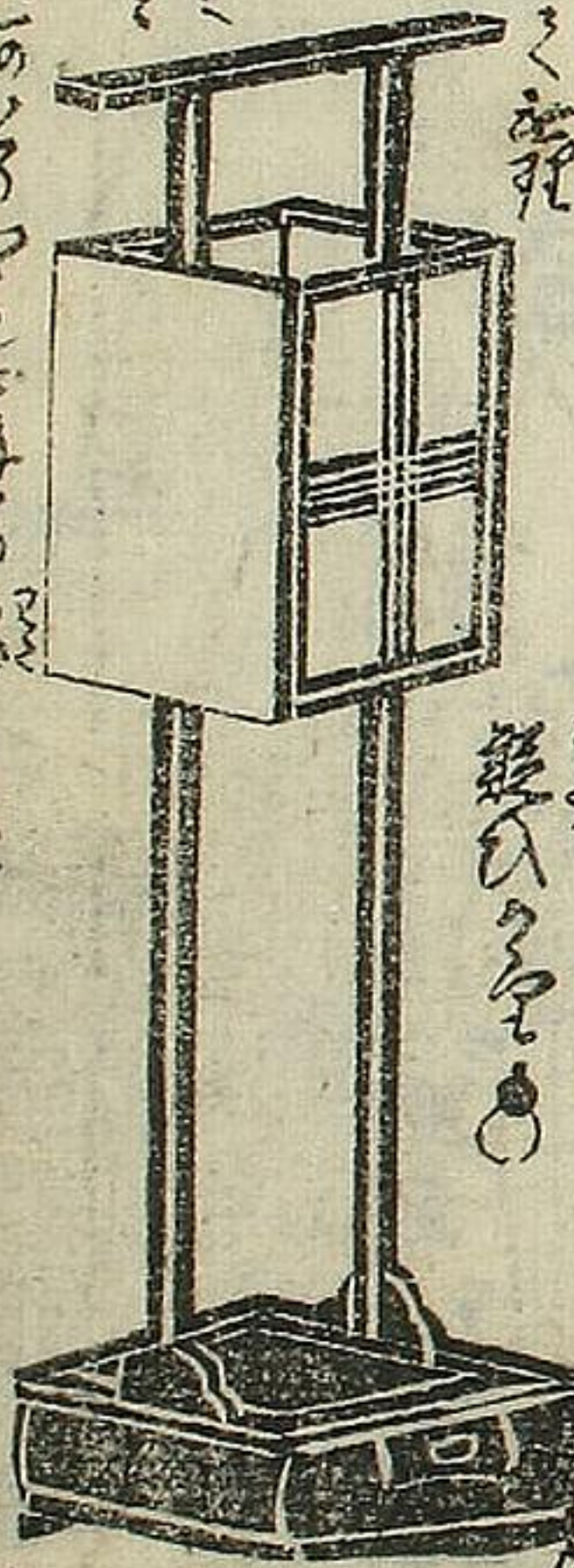
おれは彼の所へ入る
おれは彼の所へ入る

昔一徹まう
の口一徹まう
おれは彼の所へ入る

おれは彼の所へ入る
おれは彼の所へ入る

おれは彼の所へ入る
おれは彼の所へ入る

おれは彼の所へ入る
おれは彼の所へ入る



七ノ入 刀二

おれは彼の所へ入る
おれは彼の所へ入る

おれは彼の所へ入る
おれは彼の所へ入る

昔の
事案の
因縁
初と申す



不云元の道入地と云ふありて
盗賊の在る由ゆは新義
と云はれり
如何し
如何し
如何し

如何し
如何し
如何し



如何し
如何し
如何し

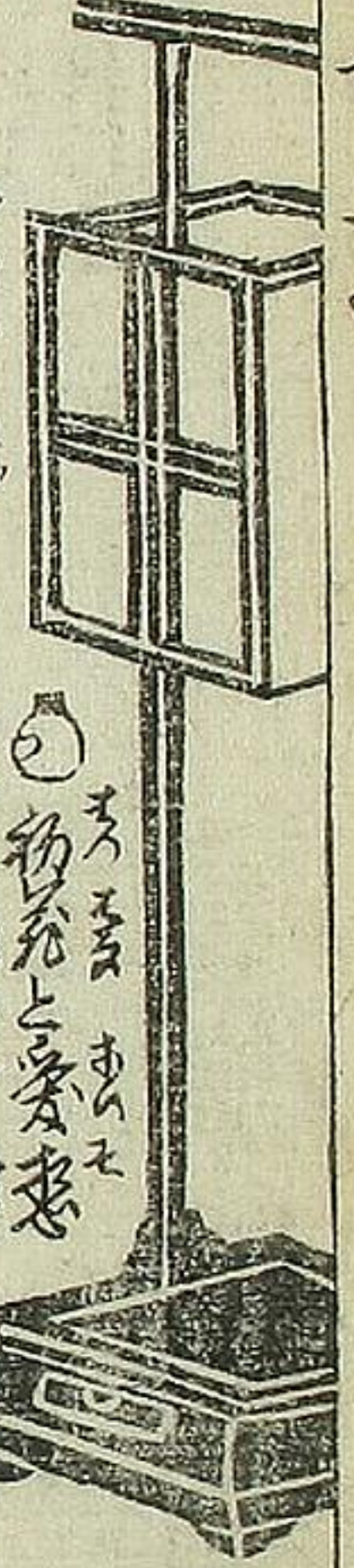
昔の
事案の
因縁
初と申す
如何し
如何し
如何し



如何し
如何し
如何し

如何し
如何し
如何し

ついで



物の箱と愛蔵

夜も入らぬ海人

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

△浮世の教壇や人情
を教へて居る女は
やがて十とせよとの
造りたる愛蔵
て今宵七十
の由指子
まて来て
二階の揚ら
りとせよと形
の由指子
を教へて居る
車夫との世
間の通る物
の由指子



△浮世の教壇や人情
を教へて居る女は
やがて十とせよとの
造りたる愛蔵
て今宵七十
の由指子
まて来て
二階の揚ら
りとせよと形
の由指子
を教へて居る
車夫との世
間の通る物
の由指子

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

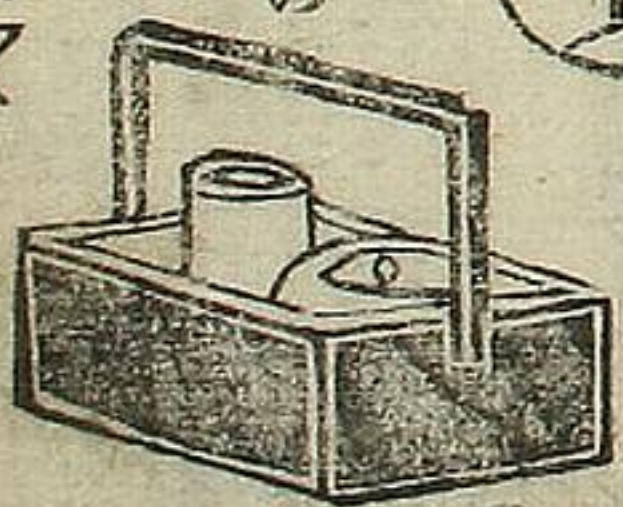
の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く



次へ



の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

の酒肴は多敷く

西と被るべきと合

切ると

私におもへ替國の形を何卒

鳴さねのハ大さな

波分けスツリとあひ切つて

恥をまふ人うは始り

下さうませ「サ」をわねも

世間の

永さんのお身のお為ふ

餅りも

あるとの切あひ後

○世の後世もより大なるもの

おまスツバリとあひ切て

初

切まそやさうろ「アイ」トエ

おませんがアノ物花の後世さん

私「や」後「や」ハ「三」ト物り

おまに如何しとやうな後世さん

合方まらとらとあり物花は

おまに如何しとやうな後世さん

あつて事と分たのあおとと

おまに如何しとやうな後世さん

下は小波分と定めてお恨

おまに如何しとやうな後世さん

多さんせうが如何おまの如

おまに如何しとやうな後世さん

の初め毎日息の容の救済

おまに如何しとやうな後世さん

中で備云の夫婦約束

おまに如何しとやうな後世さん

指まで切るとを長く

おまに如何しとやうな後世さん

通し可愛男のあひ心

おまに如何しとやうな後世さん

愛想つ「」頼み虫と

おまに如何しとやうな後世さん

字と消とら「」若し

おまに如何しとやうな後世さん

おぬ美花の縁切は

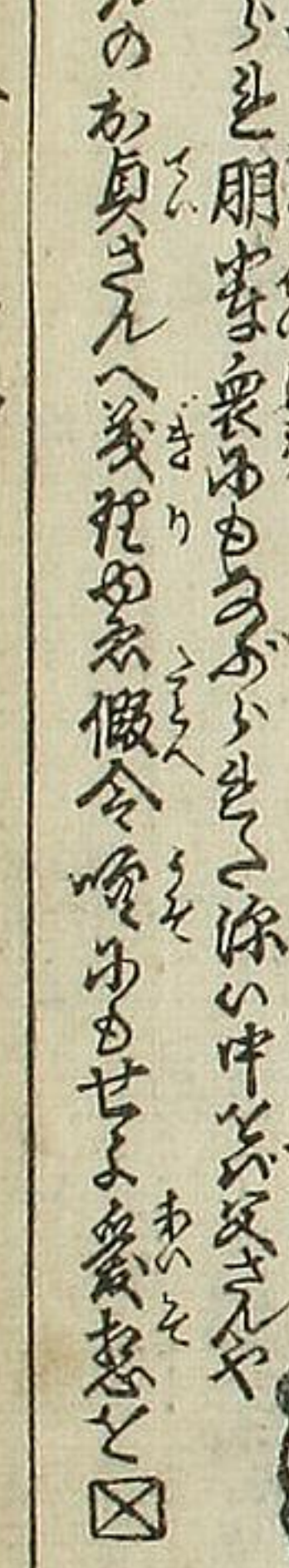
おまに如何しとやうな後世さん

甘美が娼妓の器

おまに如何しとやうな後世さん

中の今日や明日の事

おまに如何しとやうな後世さん



おまに如何しとやうな後世さん

おまに如何しとやうな後世さん

おまに如何しとやうな後世さん

おまに如何しとやうな後世さん

おまに如何しとやうな後世さん

おまに如何しとやうな後世さん

おまに如何しとやうな後世さん

おまに如何しとやうな後世さん

おまに如何しとやうな後世さん

おまに如何しとやうな後世さん

おまに如何しとやうな後世さん

おまに如何しとやうな後世さん

おまに如何しとやうな後世さん

おまに如何しとやうな後世さん

おまに如何しとやうな後世さん

おまに如何しとやうな後世さん

おまに如何しとやうな後世さん

おまに如何しとやうな後世さん

おまに如何しとやうな後世さん

おまに如何しとやうな後世さん

おまに如何しとやうな後世さん

おまに如何しとやうな後世さん

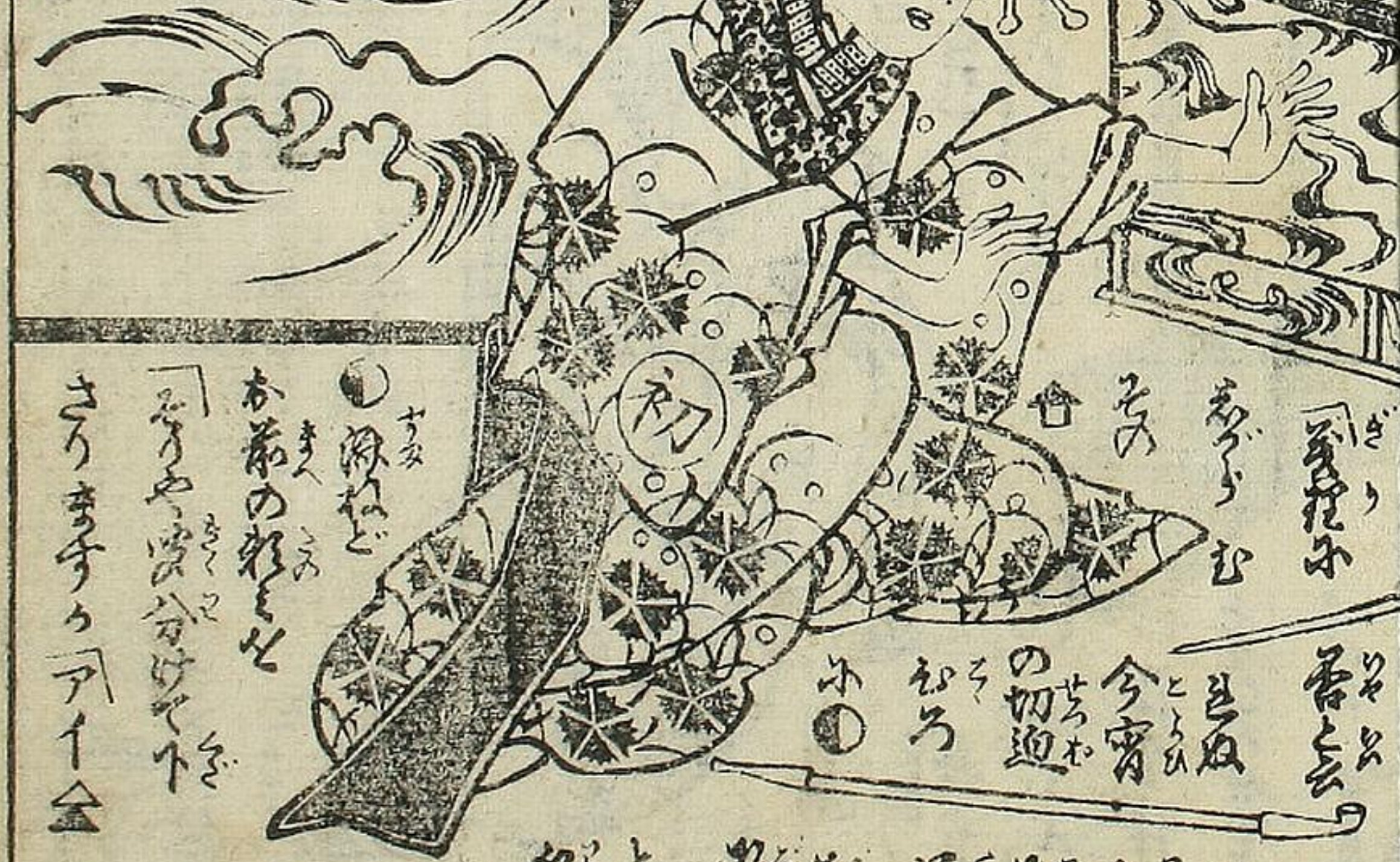
おまに如何しとやうな後世さん

ついでに 借り下月を長くして三月之内に
 此後 織と尋ねぬ 攝北へ出陣参り
 是より 平が命小勢人後旗模の
 か例へ 金形末多く 傳せざる何う
 中本と 波分て 移る程と 波分て
 さへ 二へ 伝令 如何 移る程と
 さき 二へ 伝令 如何 移る程と
 多し 二へ 伝令 如何 移る程と
 云々 二へ 伝令 如何 移る程と
 大事と 波分て 移る程と
 大事と 波分て 移る程と

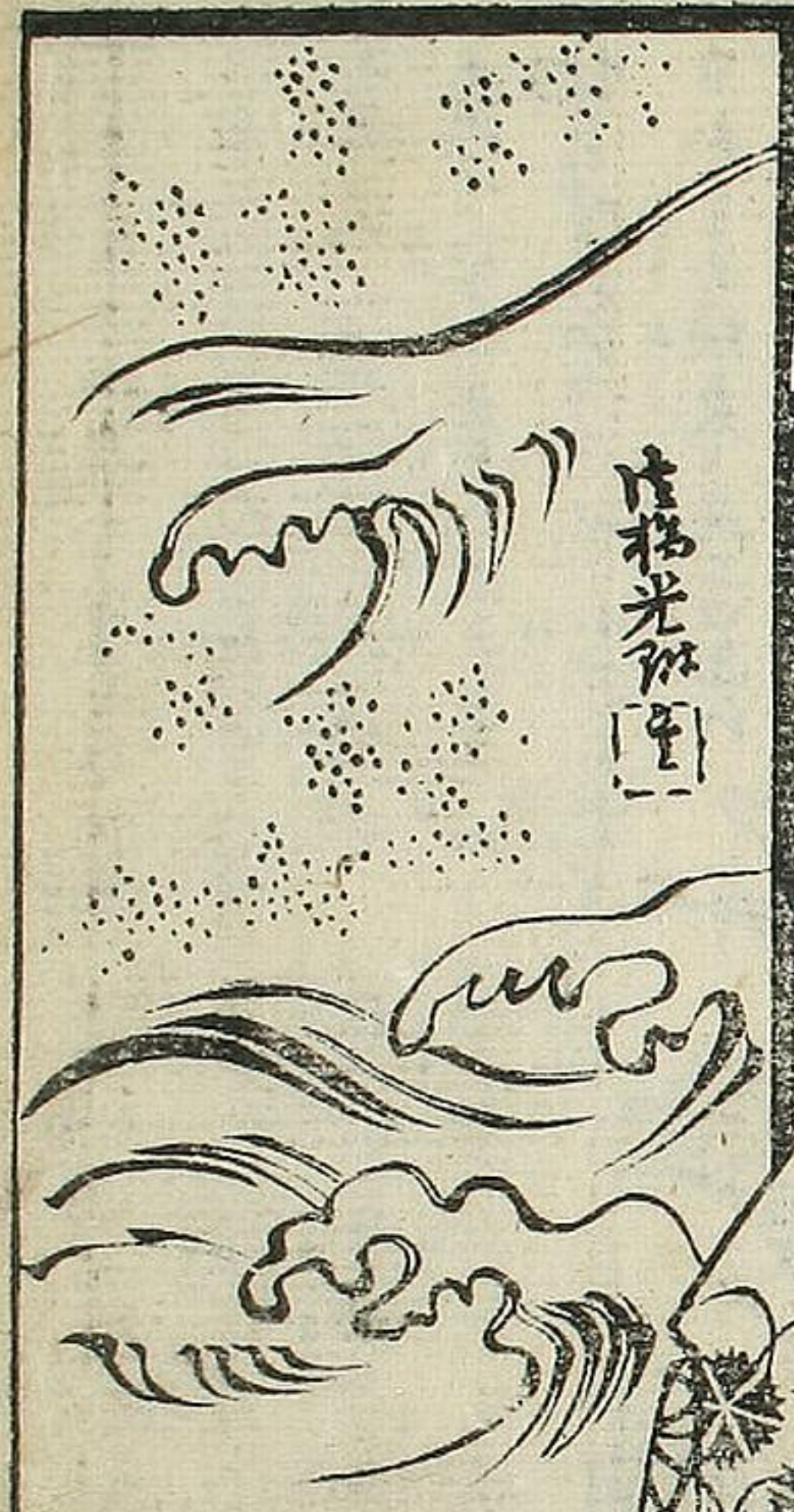


後 借り下月を長くして三月之内に
 此後 織と尋ねぬ 攝北へ出陣参り
 是より 平が命小勢人後旗模の
 か例へ 金形末多く 傳せざる何う
 中本と 波分て 移る程と 波分て
 さへ 二へ 伝令 如何 移る程と
 さき 二へ 伝令 如何 移る程と
 多し 二へ 伝令 如何 移る程と
 云々 二へ 伝令 如何 移る程と
 大事と 波分て 移る程と
 大事と 波分て 移る程と

借り下月を長くして三月之内に
 此後 織と尋ねぬ 攝北へ出陣参り
 是より 平が命小勢人後旗模の
 か例へ 金形末多く 傳せざる何う
 中本と 波分て 移る程と 波分て
 さへ 二へ 伝令 如何 移る程と
 さき 二へ 伝令 如何 移る程と
 多し 二へ 伝令 如何 移る程と
 云々 二へ 伝令 如何 移る程と
 大事と 波分て 移る程と
 大事と 波分て 移る程と



借り下月を長くして三月之内に
 此後 織と尋ねぬ 攝北へ出陣参り
 是より 平が命小勢人後旗模の
 か例へ 金形末多く 傳せざる何う
 中本と 波分て 移る程と 波分て
 さへ 二へ 伝令 如何 移る程と
 さき 二へ 伝令 如何 移る程と
 多し 二へ 伝令 如何 移る程と
 云々 二へ 伝令 如何 移る程と
 大事と 波分て 移る程と
 大事と 波分て 移る程と



花光山
 借り下月を長くして三月之内に
 此後 織と尋ねぬ 攝北へ出陣参り
 是より 平が命小勢人後旗模の
 か例へ 金形末多く 傳せざる何う
 中本と 波分て 移る程と 波分て
 さへ 二へ 伝令 如何 移る程と
 さき 二へ 伝令 如何 移る程と
 多し 二へ 伝令 如何 移る程と
 云々 二へ 伝令 如何 移る程と
 大事と 波分て 移る程と
 大事と 波分て 移る程と

つゞき ① どのかゝるとありつゝは後
 ② 若中六枚原風を立止る
 ③ 是れは箱
 ④ 大官

とよまひつて今宵の内小下襟り
 の襟本の部迄へ香煙入る
 あつてなまを後へ引くもあふ
 切とすりのひやア、おぼれが
 由おまのぬきを又二ツゆ
 以前遠のお真まゝの
 若中六枚原風を立止る
 是れは箱
 大官

若中六枚原風を立止る
 是れは箱
 大官

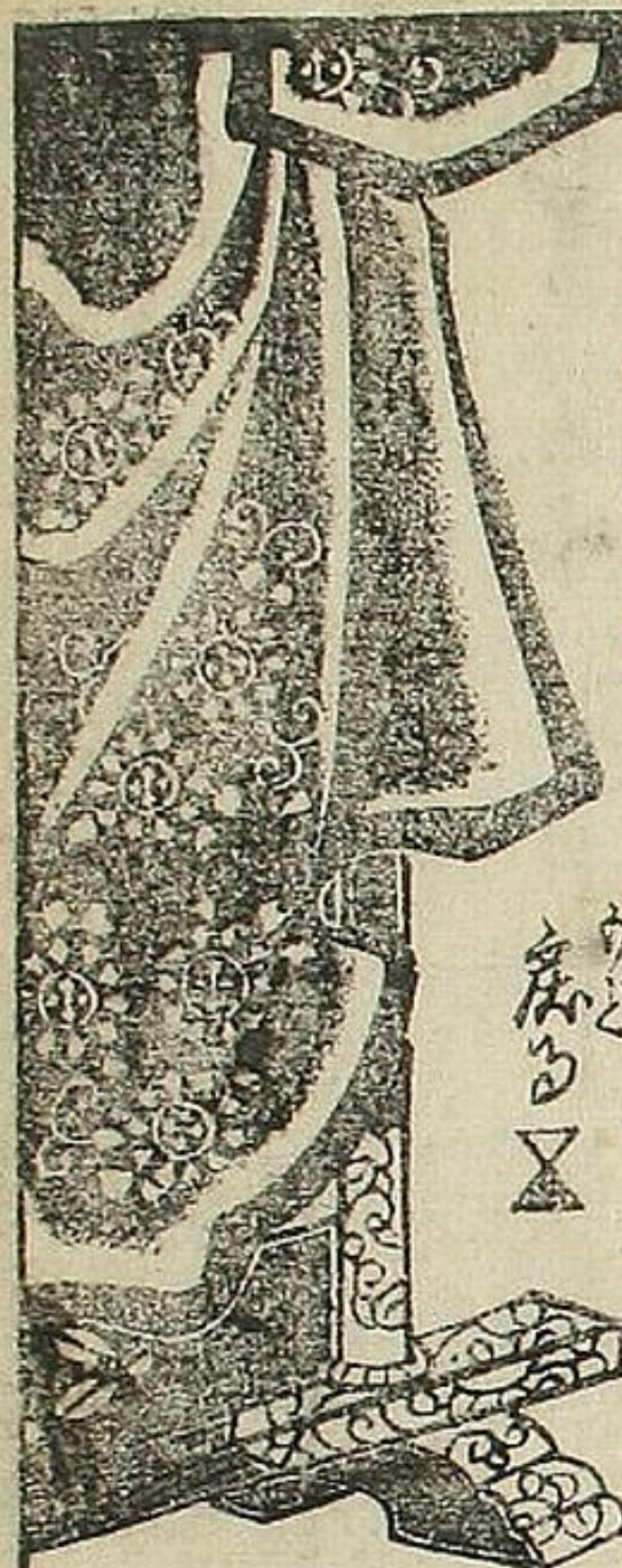


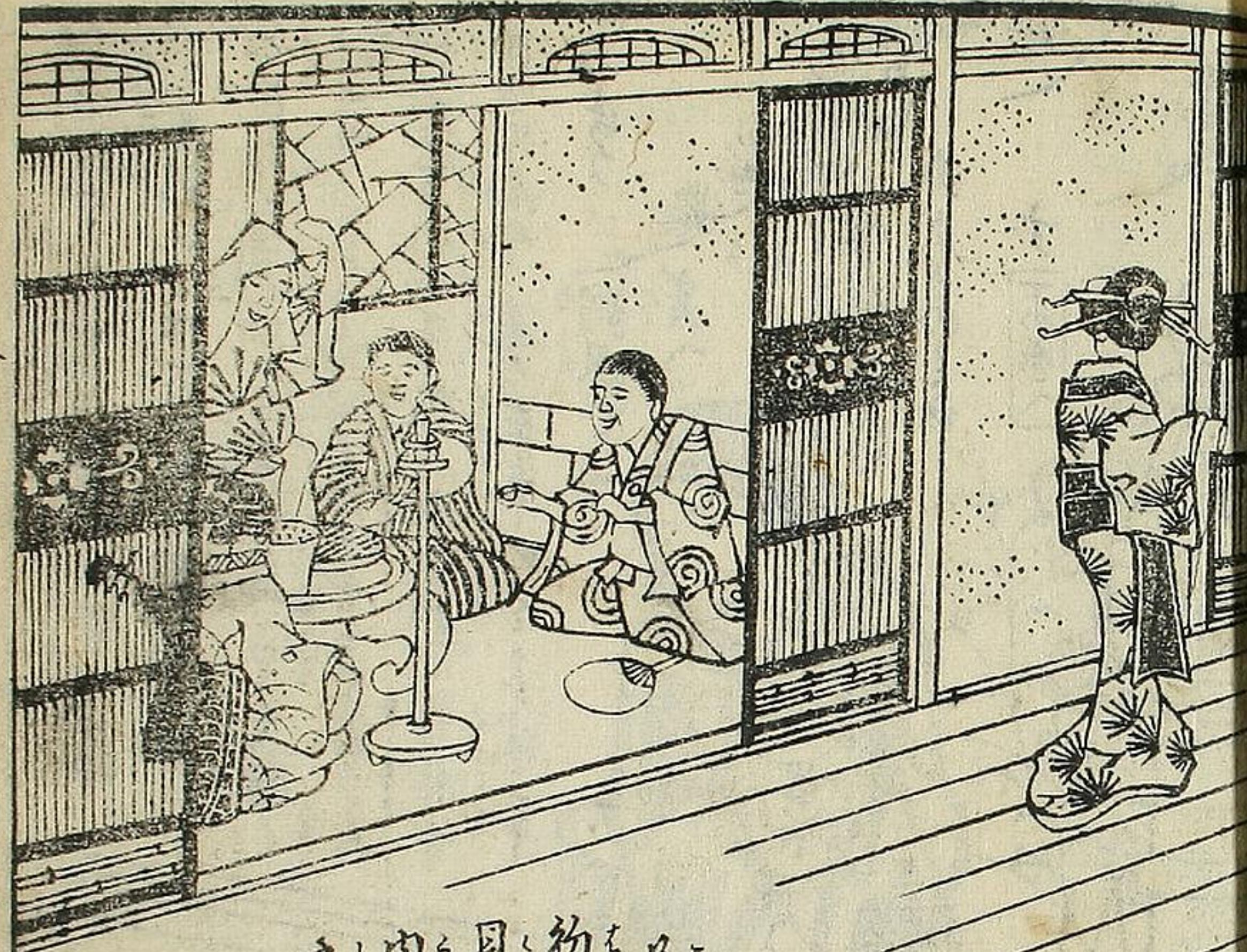
二ツゆ不投来る
 け胸の初
 晴行く町
 若中六枚原風を立止る
 是れは箱
 大官

今の若中六枚原風を立止る
 受合者す若中六枚原風を立止る
 之をも今の形とせよ
 引モウらふと下襟り
 移りの初をせよ
 小まへ振り初をせよ
 若中六枚原風を立止る
 是れは箱
 大官



① 若中六枚原風を立止る
 ② 是れは箱
 ③ 大官

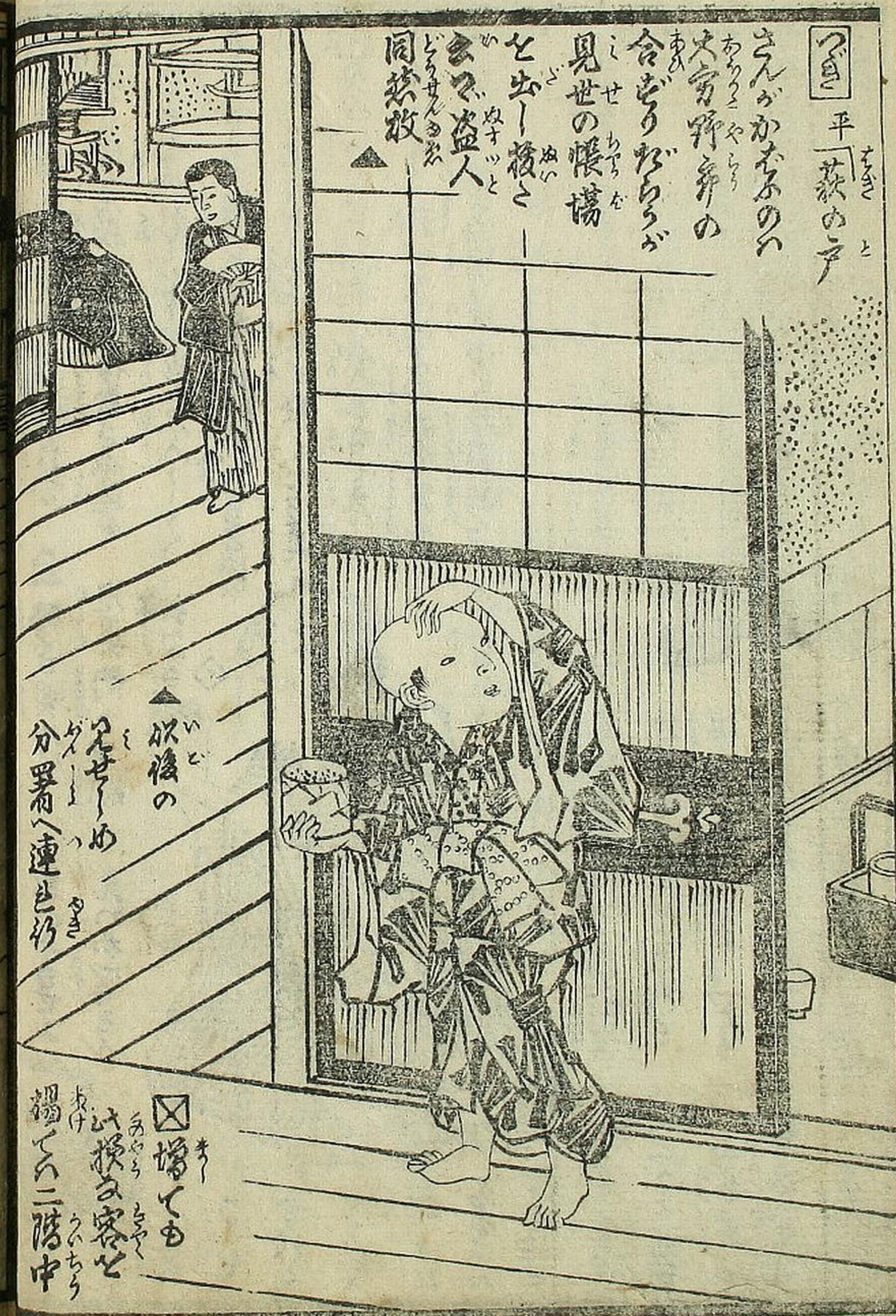




白のさきいと付る
 のごさアきくくと
 一本の葉と後推せ
 破く引多る葉の戸
 平花の袖不さアマ
 〆りやむもむごんさ
 是の海仔細あり
 物着さんにもお後しく
 見世の不義理を今宵の
 内小者番は謝せり
 子辰もあねの虫更
 お連中中まのいマア
 侍て下さんせ政一エ
 後令華妓が奉季を

のあ海にあり
 ねばは仔細つき
 出はのさ後日の
 為平標きの
 糸へも服を被
 〆りやむもむごんさ
 愈もあアあり
 ねばは仔細つき
 出はのさ後日の
 為平標きの
 糸へも服を被

次へ



平 萩の戸
 さんがかたぶの
 大分野舟の
 合さるならうが
 見世の帳場
 と出し後と
 盗人
 同然救

以後の
 分署へ連色仍
 〆りやむもむごんさ
 〆りやむもむごんさ
 〆りやむもむごんさ

〆りやむもむごんさ
 〆りやむもむごんさ
 〆りやむもむごんさ

〆りやむもむごんさ
 〆りやむもむごんさ
 〆りやむもむごんさ

つぎ 初なる小罵をまがらむを理を伴ふ
引立仍んとはさるを後推の面目を
こぼれてアコレ平花のまろく暫く
待つて下さるト合符ある今更とあり去
れどまるとの由来様を換されどまると
知つて飛穿の通り玄草の冬々小半幸
あまう 別謀で
笑へ
あぐらこのまき
す 下の巻へ



近世文武英雄傳

中本 飯田定一集
大蘇芳年画

鹿兒島征討實記

同 飯田定一集
大蘇芳年画

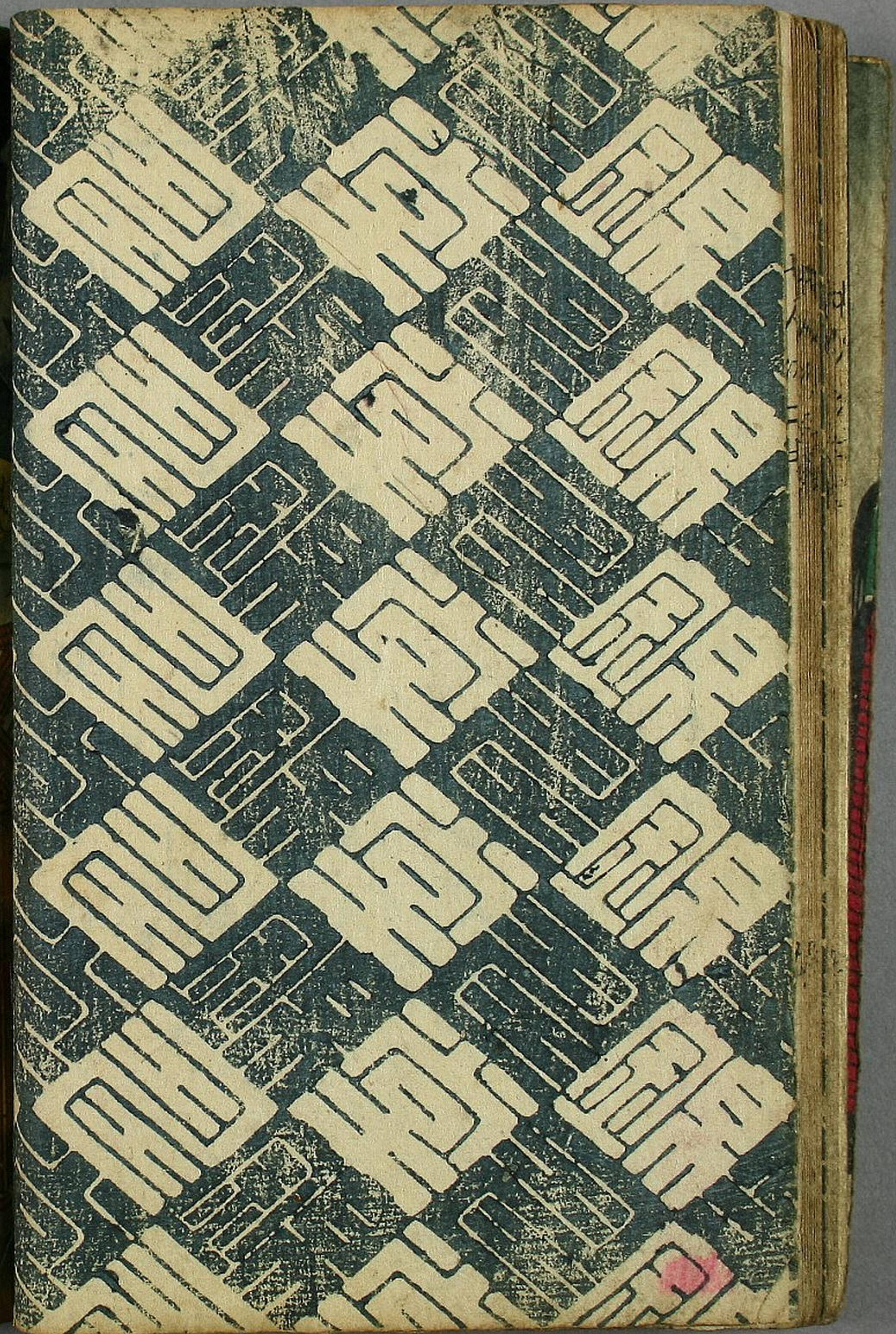
霜夜鐘十字辻筮

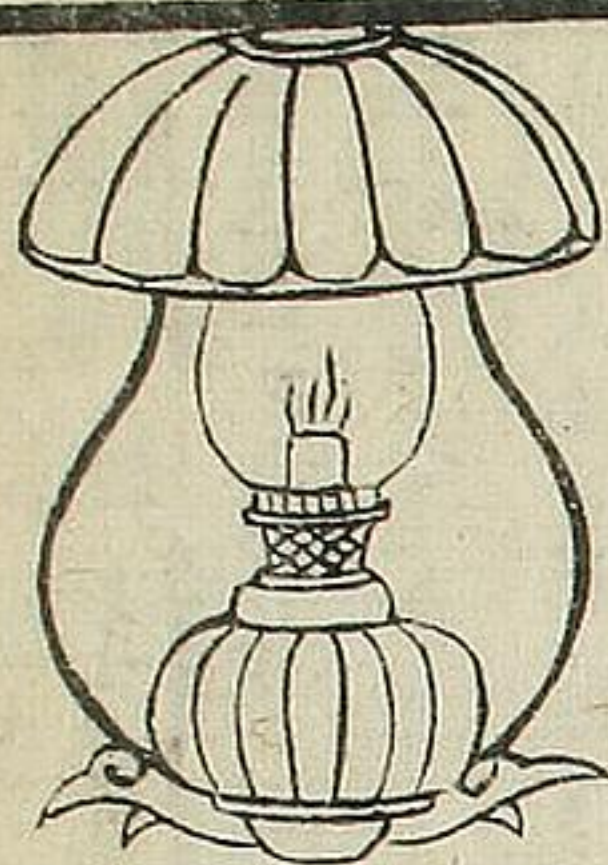
從初編 武田交來録
至五編 大蘇芳年画

冠松真土夜暴動

前後兩編 武田交來録
ニテ完全 大蘇芳年画

這回へ江湖小雷鳴しある神奈川縣下相模國平塚在の直土村
の紛紜近來稀なる憤怒の挙動多年の積惡應報ニテ終小夫の
冥罰免れを義徒のゝるに豪家と絶滅を予勸善懲惡の教
戒りのかゝりなり





中の巻ふつぎ 見世の不義理も願う事
 一回小迫つて逢引も男と生区 甲斐文由
 おく形も養であるの事
 今と公今後悔し面月
 さいと由和らいとも
 云やうも多たけり
 の罪分署へ引と
 云やうもさうく せむり
 ありはれど僕も士族の
 肩書あれは 何卒取券の

好むと云ひ
 まさうらりの
 許しなくまされ
 コレは通り

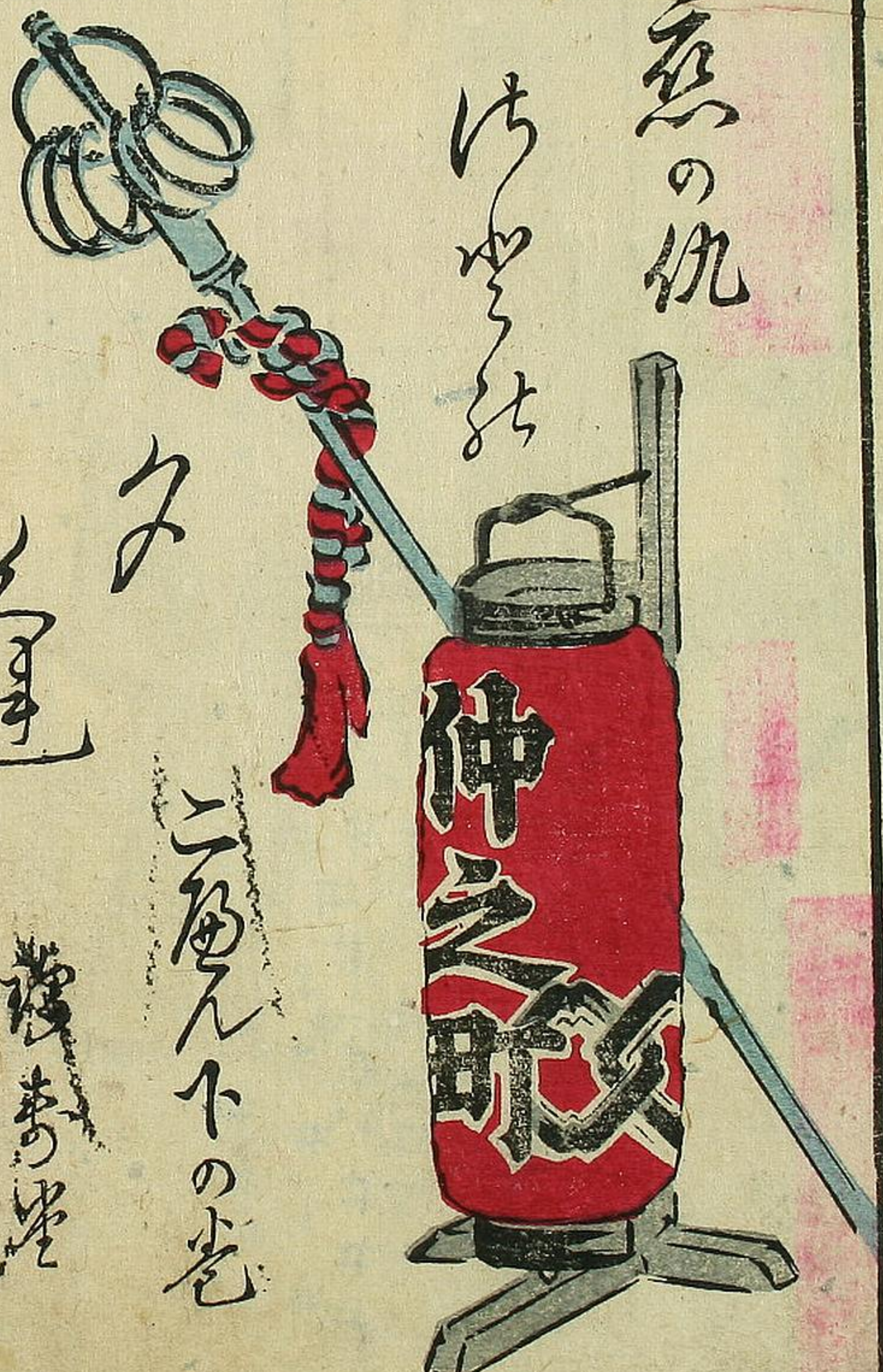
あはくまゝえん
 揚白只様悪しと呉と行りて是が海ふと
 あふのり香煙の酒燈も由程があるよ
 盗入
 せんせ
 せんせ
 せんせ
 せんせ
 せんせ



○頼むくト多せつ身軽む
 頼むくト多せつ身軽む
 何卒はま
 △備えん
 △備えん
 △備えん
 △備えん
 △備えん

恋の仇

はやり結



夕
 夕
 夕

二角ん下の巻

後集の巻

梅

止めよ



通へり萱川氏ゆて有るう

如河ゆの拙者が萱川

藤安殿も同く致婚のう

初花の買湯う急の赤

恨の精進も急赤あふは

そらふ今の開け世の中に

帯紐さるねん士族といふ

肩ああれど先はとて高

仲間の精お積高法は

我々おお何ゆては家

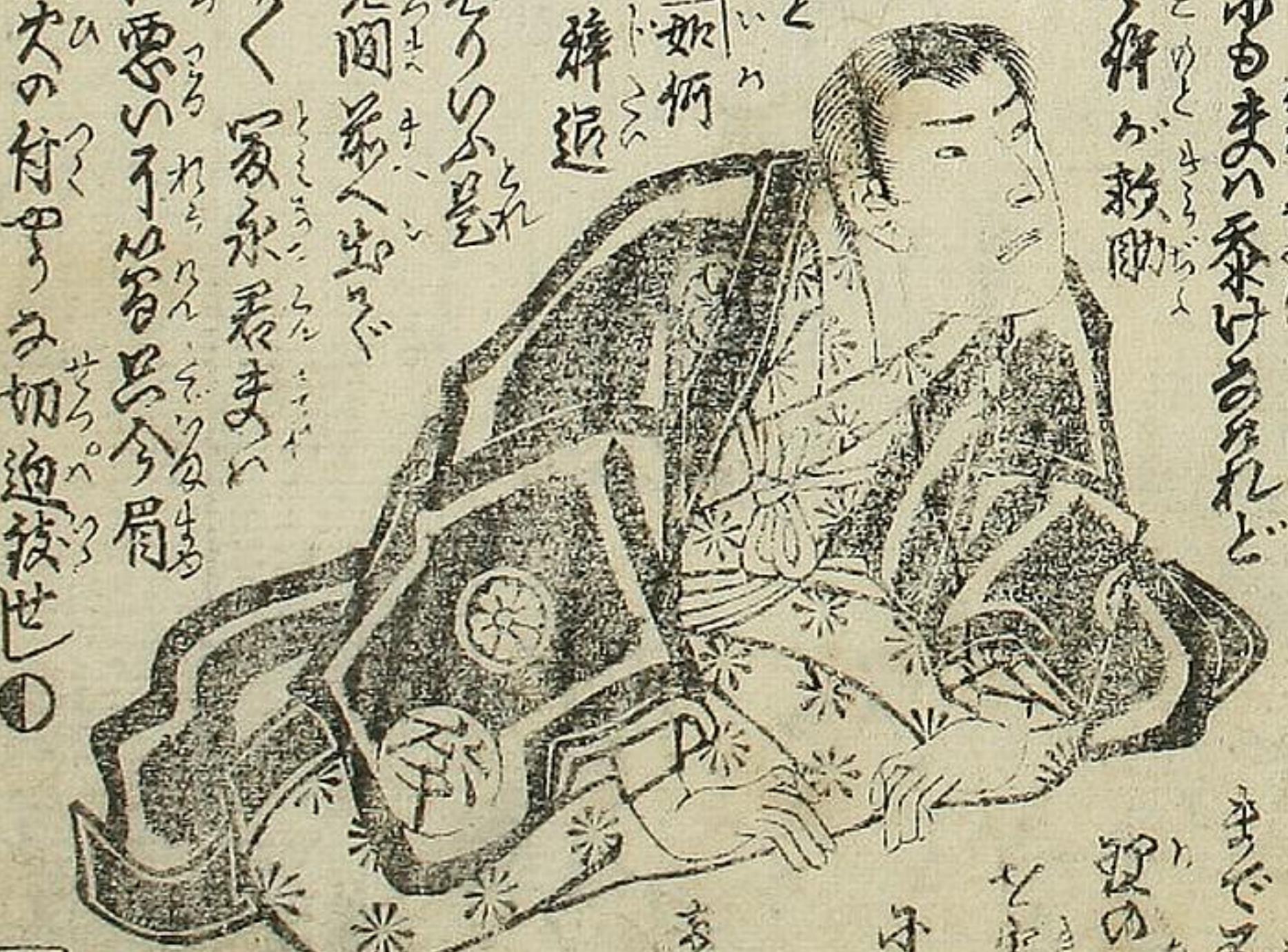
永氏今宵の切迫と美れ

あふ僕が僕ゆては

後「そらや」殿ゆては

媚妓の結核と何ゆて

此の難儀は... 湯合とる... 此の難儀は... 湯合とる... 此の難儀は... 湯合とる...



後「そらや」殿ゆては... 媚妓の結核と何ゆて... 媚妓の結核と何ゆて...

合方勢多「の扱ひと切は」て公柳老「不汲瓶」
 二人が中を引引長くあそび廻り
 惚い扱されど如何しと保つ物會
 くらり、初花小首ツ夫物と通へ
 ど、生評と云津間が有故一下喚
 ども初の外へお解は
 指箱の瘻と政痛と云い
 方と向このひもさく初付の目と
 辰字年通ふも男の志を張ふ
 令と様とも角際て一回あつと
 宿の妻を流の流と林ねね刀の
 小若男が立ぬ故今後様をさ
 令と亦約翌日ハ那の苦界と難と云が
 宿元へ侍く初を居ハるハリ細ツが仮令令と云



初花小首ツ夫物と通へ
 惚い扱されど如何しと保つ物會
 くらり、初花小首ツ夫物と通へ
 ど、生評と云津間が有故一下喚
 ども初の外へお解は
 指箱の瘻と政痛と云い
 方と向このひもさく初付の目と
 辰字年通ふも男の志を張ふ
 令と様とも角際て一回あつと
 宿の妻を流の流と林ねね刀の
 小若男が立ぬ故今後様をさ
 令と亦約翌日ハ那の苦界と難と云が
 宿元へ侍く初を居ハるハリ細ツが仮令令と云

女初ゆしとて中後さ虫が中つて僕も初
 心がど如何も二人が中を引引長くあそび廻り
 惚い扱されど如何しと保つ物會
 くらり、初花小首ツ夫物と通へ
 ど、生評と云津間が有故一下喚
 ども初の外へお解は
 指箱の瘻と政痛と云い
 方と向このひもさく初付の目と
 辰字年通ふも男の志を張ふ
 令と様とも角際て一回あつと
 宿の妻を流の流と林ねね刀の
 小若男が立ぬ故今後様をさ
 令と亦約翌日ハ那の苦界と難と云が
 宿元へ侍く初を居ハるハリ細ツが仮令令と云



初花小首ツ夫物と通へ
 惚い扱されど如何しと保つ物會
 くらり、初花小首ツ夫物と通へ
 ど、生評と云津間が有故一下喚
 ども初の外へお解は
 指箱の瘻と政痛と云い
 方と向このひもさく初付の目と
 辰字年通ふも男の志を張ふ
 令と様とも角際て一回あつと
 宿の妻を流の流と林ねね刀の
 小若男が立ぬ故今後様をさ
 令と亦約翌日ハ那の苦界と難と云が
 宿元へ侍く初を居ハるハリ細ツが仮令令と云

客小娘の附合小下中後で

一花もはさる都先まき

肉蔵の光入力車

由曳様ごう

兼のつて

も尋ね

てあがる

ト悪口小後旗本むき

昔しりて傾城小娘

初花けのほまの家

出ひ是と近調小通

の邊りてそ恨とま

是取今の身の人

宿小娘へまぬら



華妓の伯も得役〇イ工
得役お素正上で

是は那〇き

これも今を思

のよりせあ

まぬらら

あつて平

の拵ひ

さかお

まの



お素正上
お素正上

お素正上

お素正上

お素正上

お素正上

お素正上

お素正上

お素正上

お素正上

お素正上

お素正上

お素正上

お素正上

お素正上

お素正上

お素正上

お素正上

お素正上

お素正上

お素正上

お素正上



不慮波粒の中

初等も様

取らる

永さん

さん

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の
洋傘
初
お素正上

の
お素正上

番亭作
國政画

この後、明治十四年四月六日、御届明治十四年四月六日、編輯人、神田區元柳原町三番地、出版人、船津忠治郎、三冊よき切、武田交来録、楊洲周延画、岩神正美録、梅堂國政画、尾訂の、此出板、性外



倭洋妾横濱美談

武田交来録
楊洲周延画

戀仇 荅盛街夕暮

岩神正美録
梅堂國政画

御届明治十四年四月六日

編輯人 船津忠治郎
神田區元柳原町三番地
出版人 船津忠治郎

010190513977

